683
238
683-238
1200501578039

# 炭鑛案内

奥中孝三編

68
23

# 炭鑛案内

昭和十一年三月印刷

石炭鑛業聯合會

昭和十一年三月印刷

# 炭鑛案

石炭鑛業聯合會

## 內

683-238

# 目次


一 三池鑛業所……一頁
二 嘉穂炭鑛……五
三 吉隈炭鑛……八
四 鯰田炭鑛……一二
五 大之浦炭鑛……一六
六 田川鑛業所……二〇
七 沖ノ山炭鑛……二五
八 東見初炭鑛……二八
九 夕張炭鑛……三三
一〇 三菱美唄鑛業所……三六
一一 砂川鑛業所……四一頁
一二 好間炭鑛……四六
一三 磐城炭鑛……五〇
一四 入山炭鑛……五五
附 積込設備……一
若松港……一
宝蘭港……五
附表 昭和十年重要炭山出炭高表……九
附圖 九州、宇部、北海道、常磐炭鑛位置圖

# 一、三池鑛業所

鑛業權者　三井鑛山株式會社

位　置　福岡縣大牟田市

鑛區面積　採掘鑛區三四、〇〇〇、〇〇〇坪
　　二、二四七、七二七瓲

鑛産額　昭和八年　二、三二五、一五七瓲
　　昭和九年　二、四七七、三九四瓲

地理　福岡縣大牟田市に在り、鑛區は大牟田市、三池郡及熊本縣玉名郡の一市二郡並に有明海面の一部を含みたるものにして東西約六里、南北約五里半に渉る。

地質及炭層　第三紀始新世に屬し花崗岩を基磐とせる沈積成層にして殊に砂岩層の多き砂頁岩互層をなし此の間に數條の炭層を介在す。從來稼行せるは三池八尺層と稱する炭層なり、露頭は三池町附近より走向約一三〇度を以て南方高瀬町附近に連り、傾斜約五度三〇分を以て西方有明海底下に沈入す。層厚五尺乃至一六尺、平均八尺餘りあり。

炭質及用途　三池炭は特異の淡赭色を帶び炭目に乏しく粘結性を有し發熱量と瓦斯分に富む、主と

して汽罐用焚料、セメント、鍛冶用、コークス原料に適し、炭質優良なり。

| 種別 | 水分% | 揮發分% | 固定炭素% | 灰分% | 硫黄分 | 發熱量カロリー |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 三池八尺 | 〇・三五 | 四〇・一〇 | 五三・二二 | 六・三三 | 二・二九 | 八、一四〇 |

現在稼行中の主要なる坑名次の如し。

| 坑名 | 捲揚機 | 延長 | 傾斜 | 日産摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 宮ノ浦 | 二〇〇馬力 | 一、〇〇〇米 | 一八—一四度 | 三、二五〇噸 二〇吋ベルトコンベヤー四段繼一〇時間三、〇〇〇噸のものとし近く運轉開始す |
| 萬田 | — | — | — | 二、八五〇 蒸氣捲、四九五馬力二臺 |
| 竪坑 | 四九五 二九〇 | 二七二 | — | 同 二九〇馬力一臺 |
| 四ツ山 | — | — | — | 一、七〇〇 竪坑二、各々捲揚、能力二、〇〇〇噸 兩段式四面捲、ケーペ式六八〇馬力發電機二臺を並置す、計一、三六〇馬力 |
| 竪坑 | 一、三六〇 | 四〇九 | — | — |
| | | | | 計 七、八〇〇 |

**採炭法** 當所の採炭は從來總て二〇米—四〇米角の殘柱式を採用せしも近年長壁法を併用するに至れり、石炭採掘の作業は總て發破掘にして穿孔は三池式電氣鑿孔機を用ひ、岩磐の掘鑿にはニューマチック鑿岩機を使用せり。坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機四〇〇馬力三臺、一〇〇馬力三臺、六〇乃至四〇馬力一七臺、ジヤックハンマー五五、デンバー四三、其他五、切羽運搬機にセーカーコンベヤー五五、チェン式コンベヤー二、ベルトコンベヤー三、ジョイ式ローダー二、(三〇馬力全重量約

四噸積込能力毎分一・五噸)あり。

充塡 明治四十一年より濕式充塡を開始し更に昭和三年より乾式充塡を實行するに至れり。濕式充塡材料は地表採土並に河海砂を用ひ、空氣充塡機にはデマーグ式壓力一平方吋に付き三〇封度、吹込容量毎時約八坪のものあり。

**運搬法** 採掘せる石炭は切羽面迄車道を敷込みショベルを以て直接炭車(容量木製〇・六一、鐵製〇・七四及一・一〇瓲)に積込むか、シエーカーコンベーヤー、チエーンコンベーヤー、ベルトコンベーヤー、又はローダーを以て積込をなす。本線運搬機は大體に於て電車線を主要運搬の本線とす、各部卸にはエンドレス機、ホーリング機を設備す。電車は架線式四—六瓲四四臺、八瓲六臺、蓄電池式五臺あり。エンドレス機に一〇〇乃至二二〇馬力五、六〇馬力乃至三〇馬力六、ホーリング機に一〇〇—二二〇馬力四、七五—六〇馬力九臺あり。

各卸よりの石炭は捲揚機により本線に集り電車にて本斜坑、或は竪坑底に至り、各坑口捲揚機により坑外に搬出す。

宮ノ浦坑、現在のエンドレス捲揚機は近く二〇吋ベルトコンベヤー四段繼一〇時間三、〇〇〇瓲のものとなす計畫なり。

**通氣法** 坑内の排氣は固定吸出扇風機による、扇風機の種類はシロツコ型、一五萬立方尺、二〇〇

馬力一、ラトー式三〇萬、五〇〇馬力一、ウオルカー二〇萬、二〇〇〇馬力一、シロツコ二萬立方尺三〇馬力一、ゼフレー四〇萬立方尺、五六三馬力一、等を設備し通氣を計る。

**排水法** 坑内の排水はタービン、ヂユープレツキス等を用ふ。各坑の排水量は合せて毎分二、一五〇立方尺に及び各坑を合せ坑底卿筒にタービン一二〇馬力一、二〇〇馬力一九、三〇〇馬力二、三五〇馬力二、九〇〇馬力八、計三二、ヂユープレツキス二五二馬力二、三三七馬力三、九〇四馬力五、計一〇臺。

其の他に二〇〇馬力以上三五、一〇〇馬力以上三〇、一〇〇馬力以下四三、總計一五〇臺あり。

**選炭法** 宮ノ浦にセーキングスクリーン三臺、萬田にヂヤイレイター付バースクリーン三臺、四ツ山にセーキングスクリーン二臺を備へ中塊以上は何れもピツキングバンドに移し手選をなす。水洗設備、三池全山の小塊炭は四ツ山坑附近に設置せる水洗場に送りて水洗す。同所設備はジツガー式二臺にして一臺、一日容量一、五〇〇噸を有す、尙ドルシツクナー、オリバーフイルターを設置し沈澱炭の採收と用水の循環作用をなせり。

精品は大塊一吋四分ノ三以上、中塊は一吋二分ノ一以上、小塊は八分ノ七吋以上、粉炭は八分ノ七吋以下に分つ。

**照明** 切羽其の他の作業場には總て定置電燈を架設す、主として電氣安全燈を用ひボンネツト揮發油安全燈を併用す、電氣安全燈はエヂソン型、GS帽上燈を用ふ。

**鑛夫數**

| | 坑内夫 | 坑外夫 | 計 |
|---|---|---|---|
| 宮浦 | 一、八七三 | 二九七 | 二、一七〇 |
| 萬田 | 一、七六二 | 三五一 | 二、一一三 |
| 四ツ山 | 二、二七七 | 三〇一 | 二、五七八 |
| 計 | 五、九一二 | 九四九 | 六、八六一 |

**附帶事業** 動力施設として瓦斯發電六、二四〇、港蒸氣發電一四、〇〇〇、萬田排氣發電一、六〇〇、大浦排氣發電九、〇〇〇、九水四七、〇〇〇キロワツト、計七七、八四〇キロワツトの設備あり。

其の他 三池製作所、三池製煉所、三池染料工業所、三池港務所等あり。

## 二、嘉穗炭鑛

**鑛業權者** 嘉穗鑛業株式會社

**位置** 福岡縣嘉穗郡上穗波村大字充吉

**鑛區面積** 採掘鑛區 二、〇一一、〇九九坪

**鑛産額** 昭和八年 二〇九、三七八瓲

昭和九年　二六三、〇一四瓲
昭和十年　三〇八、一八一瓲

**地理**　嘉穗郡の西部に位して筑豐本線上穗波驛を距る北方約一粁なり、若松に四八・一粁、博多に三八・四粁、飯塚に八・七粁あり。

**地質及炭層**　基磐は古生代石英片岩よりなる第三紀夾炭層にして筑豐炭田の本層群の一部と大燒層群の全部を含む、走向南北、西に一〇度傾く。炭層は四層ありて大燒層群の最下部より四尺層六・五尺、五尺層四・五尺、三尺層六—八尺、八尺層一一尺にして現に稼行せるは五尺層及三尺層なり。

**炭質及用途**　五尺層は瀝青炭にして稍堅く漆黑の光澤あり、割目は縮緬狀を呈し揮發分多く灰分及硫黃分の含有少なく發熱量高く粘結性なり。

瓦斯、コークス、製鋼、製鐵、硝子、陶磁器製造燃料、一般燃料に供し又鍛冶用炭として特に賞用せらる。

其の分析表左の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黃分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 五尺層 | 二・二六% | 四二・六八% | 四七・五七% | 七・四七% | 〇・四四% | 七、四五九カロリー |
| 三尺層 | 二・五九 | 三七・六九 | 四六・四六 | 一三・二六 | 〇・四七 | 六、八八七 |

坑名　現在稼行中の坑名は一坑及二坑とす。

| | 捲揚機馬力 | 延長米 | 傾斜 | 日産 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一坑本卸 | 二五〇 一六吋 | 八二〇 | 一〇度 | 八〇〇瓲 | 二五〇馬力電氣捲及十六吋蒸氣捲 |
| 二坑卸 | 二五〇 | 三〇 七四三 | 一〇度 | 二八〇瓲 計一〇八〇瓲 | 二五〇馬力電氣捲 |

**採炭法**　採炭は後退式片磐拂長壁法により切羽の長さ七〇—一〇〇米にして主として截炭機切羽運搬機を使用す、空氣壓縮機にロータリー式三〇〇馬力一、六〇馬力二一、截炭機にコールカツター八ボーラー及アトラス式コールピツク二〇、デンバードリル95四〇、切羽運搬機にチエーンコンベヤーを用ふる等機械力に依る。

**運搬法**　切羽の石炭は直接〇・八五瓲の鐵底炭車に積込み又はチエーンコンベヤー、シエーキングコンベヤーにて運び片磐には七・五馬力モーターホイストを使用し各卸は八〇—一五〇馬力電氣捲揚機を以て主要運搬坑道に捲揚げ架空線式電車四瓲三臺を運轉し本卸口捲立に至り捲揚機に依り坑外に搬出す。

**通氣法**　坑內通氣用として吸出式主要扇風機シロツコ型二〇萬—一五萬立方尺のものを設置す。

**排水法**　坑內排水量は一分間一坑一〇〇立方尺、二坑九〇立方尺なり。

喞筒の種類及臺數はデートン五—一〇立方尺一七臺、セントリヒユーガル五〇立方尺四臺、タービ

ン三〇—五〇立方尺七臺、一〇〇立方尺二臺、其他七臺あり。

**選炭法**　選炭機は各坑ともジンマースクリーンに掛け二吋以上はピツキングベルト一臺にて手選し、二吋以下は一坑は主洗機バウム三五瓲二臺、再洗機三五瓲一臺にて、二坑は五〇瓲バウム主洗機一臺及一二瓲再選機にて水洗す。

精品は二吋以上塊、洗中塊は一吋及一吋八分ノ一以上の二種、洗粉は一吋及一吋八分ノ一以下の二種に篩分す。

**照明**　坑内の照明は電燈に依りヱヂソン型帽上燈を主としウルフ式ボンネツト型安全燈を併用す。

**鑛夫數**　坑内　男七六四、女一、坑外　男一〇九、女四三、計九一六、

**附帶事業**　電力は九水吉隈變電所より受電し一、二〇〇キロワツトの設備あり、工作場ありて坑所の機械器具の修理をなす。

## 三、吉隈炭鑛

**鑛業權者**　株式會社麻生商店

**位置**　福岡縣嘉穗郡桂川村字吉隈

**鑛區面積**　採掘鑛區　二、三六四、五七四坪

**鑛産額**　昭和八年　二〇一、一〇五瓲
昭和九年　二〇四、四四二瓲
昭和十年　二二一、〇七一瓲

**地理**　筑豐本線飯塚より上山田に至る岐線の臼井驛にあり、飯塚に至る七粁、若松を距る四六・四粁の位置にあり。

**地質及炭層**　第三紀層に屬し筑豐炭田の本層群の大部及大燒層群の一部を含む、走向約南北、傾斜平均一六—二八度なり、現在稼行中の炭層は本層群の上五尺厚さ四・五尺、下五尺、七尺、三尺層四・五尺（煽石）四ヘダ層四・五尺（無煙）及八尺層（厚さ變化あり零尺—二〇尺煽石）、大燒層群の大燒層一五・八尺、芳ノ谷層九・三尺を採掘す。

**炭質及用途**　炭質は粘結性に富む優良なるものなり又四ヘダ層は無煙炭、八尺層、三尺層には煽石を伴ふ。主なる用途は汽罐焚料とす。

其の分析表左の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 有煙中塊炭 | 一・三四% | 三七・二二% | 四八・二二% | 一三・二二% | —% | 六、八一一（カロリー） |
| 〃 洗粉炭 | 一・三六 | 三六・八七 | 五〇・八〇 | 一〇・九七 | — | 六、九八四 |

現在稼行中の坑名

| 坑名 | 捲揚機械 馬力 | 延長 米 | 傾斜 度 | 日産 噸 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二坑本卸 | 二五〇 | 五二八 | 二〇 | 五八〇 | 本層群を採掘す |
| 坑内捲 | 二〇〇 | 六九〇 | 二〇 | | |
| 又卸 | 一四吋蒸氣捲 | 五五〇 | 二〇 | | |
| 坑内捲 | 二〇〇 | 八七四 | | | |
| 八尺坑 | 三〇〇 | 一一〇〇 | 二〇 | 二五〇 | 本層群を採掘す |
| 大浦坑 | — | | | 一七〇 | |
| | | 計 | | 一、〇〇〇噸 | |

新坑は大燒層群開發の爲め現に掘進中なり。

**採炭法**　採掘は前進又は後退式長壁法に依り切羽面の長さは四〇乃至一〇〇米、拂跡は堤防式充塡又は角捲充塡をなす。坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機一〇〇馬力乃至二〇〇馬力三、七五馬力一、採炭機にドリル五九、ピツク一〇臺あり、切羽運搬機にチエーンコンベヤー一一臺、一五馬力逆轉エンドレス二臺あり。

**運搬法**　切羽運搬には炭層傾斜急なる處は鐵樋流し、緩なる處はチエーンコンベヤー等を以て片磐坑道迄炭車〇・四五噸にて搬出し、主要片磐の運搬に逆轉エンドレス一五馬力二臺ありて斜坑捲立迄搬出し、八尺坑にありては三〇〇馬力の捲揚機械、二坑にありては一四吋スチームエンヂンにより坑外に運ぶ、此外坑内要所に二〇〇—二五〇馬力の捲揚機械を設備し卸方面の實車を捲き揚ぐ、二坑口と選炭場間は約一、八〇〇米、新坑口と選炭場間約八〇〇米なり。

**通氣法**　吉隈二坑、八尺坑共各捲卸を入氣とし排氣は兩坑共風道にて合はせ扇風機に至る、扇風機はシロツコ式にして一二萬立方尺なり。

**排水法**　タービン喞筒を用ふ。坑内湧水量は毎分六六立方尺なり。

**選炭法**　手選機はジンマースクリーン一臺にて篩ひ一六分の一吋以上を大塊、以下を粉炭とし、バンドコンベヤー一臺にて手選し、粉炭は主洗共益社式洗炭機五〇噸一臺、再選共益社式三五噸一臺、更に再選機二五噸一臺にて水洗す。

精品として大塊をクラツシユする爲め洗中塊の大さは二吋—一吋八分の一、洗粉炭は一吋以下なり。

**照明**　坑内照明は電灯に依り、ボンネツト及鎧形ウルフ揮發油安全灯を使用す。

**鑛夫數**　坑内　男一、三七一　女—　坑外　男二八九、女一六五、計一、八二五

**附帯事業**　現在選炭機新設せられ、一日一、五〇〇噸の能力あり、主洗炭機バウム型一〇〇噸、粉炭用及四〇噸中塊用のもの增設せられたり。

# 四、鯰田炭鑛

**鑛業權者**　三菱鑛業株式會社

**位　置**　福岡縣飯塚市字鯰田

**鑛區面積**　採掘鑛區　二、二九七、三一九坪

**鑛産額**　昭和八年　七〇四、三八〇瓲

昭和九年　七三二、八九〇瓲

昭和十年　七一一、三四五瓲

**地理**　鞍手郡直方市の南約八・五粁、筑豐本線鯰田驛より西約一・三粁にあり、若松港迄三四粁、鯰田より南延長五・五粁に亘り、坑口三あり、四坑、六坑、五坑とす、五坑は三井山野炭礦と指呼の間にあり。

**地質及炭層**　地質は第三紀層に屬し砂岩、頁岩、礫岩の互層より成り、鑛區内には大燒層群、本層群、竹谷層群を含有す、六坑以南本層群は火山岩の影響を蒙り炭層の一部は炭質變化し煽石、無煙炭となる、走向北東一五度傾斜は東に向ひ一五―二〇度なり、現在採掘中の炭層は筑豐炭田中の上層群にして、上部より鴨生八尺（上層五・六尺、下層六・四尺）磐下五尺三・〇―三・六、七ヘダ三尺四・〇、新五尺五・〇、新三尺、四尺の七層あり。

**炭質及用途**　瀝青炭にして節理に富み各層共優良にして發熱量大なり、弱粘結性にして高溫度を出すに適し、灰分硫黄分少く、用途は塊粉共に海陸ボイラー用及瓦斯發生用に適し特に遠航大型汽船焚料として賞用せらる。

石炭分析表次の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 塊炭 | 二・三% | 三九・五% | 四四・二% | 一四・〇% | 〇・五 | 六、九〇〇（カロリー） |
| 中塊炭 | 二・三 | 三九・五 | 四五・〇 | 一三・〇 | 〇・五 | 七、〇〇〇 |
| 粉炭 | 二・三 | 三九・五 | 四五・〇 | 一三・〇 | 〇・五 | 七、〇〇〇 |

現在稼行中の重なる坑名

| 坑名 | 捲揚機械 | 延長 | 傾斜 | 日産 |
|---|---|---|---|---|
| 四坑 新坑 | 二〇〇馬力 | 四〇〇米 | — | 五八〇瓲 |
| 右又卸 | 一〇〇 | | | |
| 南卸 | 二〇〇 | 五五〇 | | |
| 六坑 | | 四〇〇 | | |
| 道祖坑 | 一〇〇 | 六五五 | — | 六五〇 |
| 大坪坑 | 一七五 | 五五〇 | — | — |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 五坑 | 北卸 | 一五〇 | 六四〇 | 一 |
| | 南卸 | 一五〇 | 九〇〇 | 一 |
| 浦山坑 | | 三〇〇 | 六二〇 | 一 |
| | 南卸 | 一〇〇 | 五五〇 | 一 |
| | 北卸 | 三〇〇 | 三三〇 | 一 |
| 五坑（舊坑） | | 三〇〇 | 九六五 | 一 |
| | | | 計 | 一、一三〇 |

**採炭法**　前進式又は後退式長壁法にして、主としてカツターにて採掘す、採炭跡は全充塡又は堤防式充塡をなす、支柱は打柱又は鐵柱を用ふ、採炭場の拂面は長さ五五—一二〇米に及び、截炭機を遺憾なく利用し全出炭の七〇パーセントはカツターに依る。

坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機二五—五〇馬力一二臺、一五〇馬力一臺計一三臺、截炭機にカツター二一臺、サリバンCLE—2三〇馬力九臺、同CLE—1一臺、同CH—8三〇馬力四臺、日立製HCE—30三〇馬力一臺、日立製HCE—40四〇馬力四臺、メーバーコルソン3PHバーカツター二〇馬力一臺、クナツプバーカツター一六馬力一臺、デンバードリル七三臺、フロツトマン、ムードンピツクハンマー二二臺、切羽運搬機に空氣動アイコツフコンベヤー八臺、同電氣動一一臺、チエンコンベヤー一三臺、ベルトコンベヤー一臺、等を使用す。

**運搬法**　切羽運搬は殆ど一〇—一五馬力のチエーンコンベヤーにより又はアイコツフコンベヤーを



も併用し〇・六噸炭車に積み込み之れを概ね一五馬力の片磐エンドレスにより本線捲立に運び更に捲揚機によりて坑外に搬出す、五坑々口より六坑區域を經て一坑の選炭揚迄七粁强あり、此の間三噸乃至五噸電氣機關車二〇臺を使用し選炭場迄運搬す。

**通氣法**　坑內通氣は總て吸出式機械通氣法による、四坑はキヤペル四〇馬力、四萬立方尺、五坑はシロツコ二五〇馬力、一五萬立方尺、六坑はシロツコ二〇馬力、三萬五千立方尺及キヤペル四五馬力四萬立方尺なり。

**排水法**　坑內水は電動タービンポンプに依りて排水を行ふ、各坑を合はせて每分排水量一一六立方尺なり。

**選炭法**　手選機はジンマースクリーン四臺、ピツキングベルト四臺を以て二吋以上及以下に篩分け二號炭は二吋以下に碎き、二吋以下全部を水洗機は主洗機バウム一〇〇噸及五〇噸各一臺、再洗機五〇噸バウム式一臺を設備す。水洗す。

精品は二吋以上塊、洗中塊は二吋乃至一吋、一吋以下洗粉とす。

**照明**　主としてGS式、ヱヂソン式及ウルフ式キヤプランプを用ひ、ボンネツト型揮發油安全燈を併用す、採炭場の拂面にはすべて定着電燈（四〇W一〇〇V耐震電球）を使用し能率の向上を計る。

**鑛夫數**　坑內　男一、六八六　女—　坑外　男五五〇　女一二一　計二、三五七

**附帶事業**　主要動力は電力を用ひ、自家用鯰田發電所及一部九水より電力の供給を受く、鯰田發電所には三千キロ三臺を備ふ、尚ほ鯰田より新入、方城、上山田の各坑に送電す。

## 五、大之浦炭鑛

**鑛業權者**　貝島炭鑛株式會社

**位置**　福岡縣鞍手郡宮田町

**鑛區面積**　採掘鑛區　五、四〇六、九九七坪

**鑛産額**　昭和八年　一、一三三、三二四瓲
昭和九年　一、三三〇、四六五瓲
昭和十年　一、三五八、一二〇瓲

**地理**　鞍手郡宮田町外三ケ町村に跨り第二坑、第三坑、第五坑、第六坑、第八坑、羅漢坑、露天掘の總稱にして炭鑛事務所に近く直方驛の支線桐野驛あり直方市を距る西南約八粁桐野ー若松間三二・八粁あり。

**地質及炭層**　地質は第三紀層に屬する砂岩、頁岩及蠻岩よりなり、主なる炭層は、上七ヘダ層二・五尺、山張層四・〇、七ヘダ層五・五　上三尺層七・二　三尺層九・六　三枚層二・五　下三尺層六・三　五尺層七・二　三尺層九・六　三枚層二・五　下三尺層六・三　五尺層七・一尺とす。

各層相接近し全炭丈合せて厚さ四〇尺あり、炭層の傾斜平均一〇度なり。

**炭質及用途**　炭質には半粘結性と粘結性の二種ありて冴物炭は其色漆黒堅緻にして光澤に富み、火力熾烈、燃燒し易き優良炭なり、汽船焚料、汽罐燃料、鐵道機關車用炭に供せらる、粘り物は揮發分に富み汽罐燃料に適する外特にコークス及瓦斯原料炭として好適す。

分析表左の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 塊炭 | 一・九〇% | 四二・〇六% | 四五・〇六% | 一一・〇〇% | 〇・三九% | 六、八八〇カロリー |
| 洗中塊 | 二・一〇 | 四二・三〇 | 四五・一〇 | 一〇・五〇 | 〇・三八 | 六、九八〇 |
| 洗粉 | 二・〇〇 | 四二・一一 | 四五・四九 | 一〇・五〇 | 〇・三三 | 六、九九〇 |

現在稼行中の坑名

| | 捲揚機 馬力 | 延長 米 | 傾斜 度 | 日産 瓲 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二坑 斜坑 | 五〇〇 | 九〇〇 | 一九 | 一、〇〇〇 | 外に開鑿中の新二坑あり |
| 舊斜坑 | 一五〇 | 六四〇 | 一九 | | |
| 三坑 | | | | 一、三五〇 | |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 竪坑 | 蒸氣捲 八〇〇 | 二六四 | | | | |
| 北捲卸 | 二二〇 | 八九〇 | | | | |
| 南捲卸 | 三〇〇 | 四九〇 | | | | |
| 同繼捲卸 | 八〇〇 | 六四〇 | | | | |
| 五坑 | | | | | | |
| 第一本線 | 五〇〇 | 一、二五〇 | 一七・三〇 | 一、〇〇〇 | | |
| 第二本卸 | 三〇〇 | 五八〇 | 一七・三〇 | | | |
| 同繼捲卸 | 三〇〇 | 九一〇 | | | | |
| 六坑 | | | | | | |
| 三尺本捲卸 | 二〇吋 蒸氣捲 | 四〇〇 | | 九〇〇 | 一三 | 三尺本捲卸と兼用 |
| 五尺本捲卸 | | 九〇〇 | 一二 | | | |
| 八坑卸 | 一〇〇 | 六四〇 | 一七・三〇 | | | |
| 露天、毛勝 | | | | 一五〇 | | |
| | | | | 計 四、四〇〇瓲 | | |

**採炭法**　採炭法は炭層の狀態により異なり一部殘柱を採掘せる處あるも概ね長壁式灑水充塡採掘並に帶狀充塡による、切羽面の長さ四〇米乃至一一〇米なり、空氣壓縮機三〇〇馬力四、二二〇馬力二、六〇馬力八臺、截炭機にカッター　チェーン式七、バー型一、ドリル、デンバー型95二〇七、コールピックムードン型一九四、切羽運搬機にベルトコンベヤー一、シェーカー六四、チェーン六等あり、充





塡用土砂採取場は嘉穗郡幸袋町大字庄司に在り花崗岩類の風化せる土砂よりなる山地約一六〇町歩あり、土砂の採取にスチームショベル五臺、能力一臺一時間三〇立坪、其の運搬は採取場より大之浦各坑に至る本支線延長約一六粁の專用鐵道を敷設す。

各坑々口附近に六〇—三〇〇立坪の土砂貯藏所を設け注砂設備を施せり、一時間の注砂量は一〇乃至五〇立坪なり。

**運搬法**　石炭は坑內各切羽に於てベルト、チェーン、又はシェーカー式、コンベヤーにて〇・五瓲炭車に積み込み一五乃至二〇馬力の逆轉エンドレス機にて水平坑道を運び、五〇—二〇〇馬力の局部捲揚坑道を經、或は直接本捲卸坑道を捲揚機によつて坑外に搬出し選炭場に送る。

**通氣法**　各坑排氣坑口に固定吸出扇風機シロツコ型又はキヤペル扇風機風量一〇萬乃至四〇萬立方尺のものを設備す。

**排水法**　坑內水の排除には電動タービンポンプを使用す、一日排水量各坑合せて三〇〇立方尺なり。

**選炭法**　第二坑、第三坑、第五坑及第六坑の四ケ所に選炭機、水洗機の設備あり、第五坑の選炭機はジンマースクリーン二臺あり、三吋以上及以下の二種に篩分け、三吋以上はバンドコンベヤー二臺にて手選す、三吋以下はバウム水洗機一二〇瓲の主選機により更にバウム二〇瓲再選機にて水洗す。

精品は三吋乃至一吋洗中塊、一吋以下洗粉炭とす。

| 種別 | 名稱 | 主洗槽 | 臺數 | 再洗槽 | 臺數 | 再々洗槽 | 臺數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二坑 | 共益社式 | 三五瓲 | 二 | 三五瓲 | 一 | 二五瓲 | 一 |
| 三坑 | 同 | 三五 | 一 | 二五 | 一 | 二五 | 一 |
| 六坑 | 同 | 三五 | 三 | 五〇 | 一 | 三五 | 一 |

**照明** 坑內の照明は電燈による、從業員は主としてヱヂソン帽上燈及ボンネツト型ウルフ揮發油安全燈を用ふ。

**鑛夫數** 坑內 男四、五九〇 女— 坑外 男七八四 女二七〇 計五、六四四

**附帶事業** 發電設備を有するも現在は九州水力電氣株式會社より受電す、第二坑に機械及木工の中央工場を置き炭坑用機械器具の製作、修理、諸營造物の建設補修、並に事業用品の製作補修をなす。

## 六、田川鑛業所

**鑛業權者** 三井鑛山株式會社

**位置** 福岡縣田川郡後藤寺町

**鑛區面積** 採掘鑛區 八、七五八、〇一六坪

**鑛產額** 昭和八年 一、一〇九、七四七瓲
昭和九年 一、一五七、三七一瓲
昭和十年 一、二〇五、八六三瓲

**地理** 筑豐本線直方より添田に至る岐線後藤寺驛に田川第一坑あり、第三坑（竪坑）及伊田斜坑は伊田驛に、第二坑は大藪驛に、川崎四坑は同郡川崎村大字田原にありて後藤寺驛の南四・七粁川崎驛より二・五粁、伊田若松間五七・五粁の距離にあり。

**地質及炭層** 地質は第三紀層に屬し砂岩頁岩及蠻岩の互層よりなり炭層を夾在す、火山岩は其露出區域少なきも斷層に沿ひて第三紀層內或は炭層間に侵入し石炭を煽石又は無煙炭に變質せしめたる處あり、炭層は直方層群の上石、竹谷、本層、下層の四群に亙り數層あれども現在稼行せるは伊田八尺層六—七尺、中三尺層（竹谷層、川崎五尺、無煙）五・〇、本層群の田川八尺層八・〇、田川三尺層六・五、田川四尺層五・六の五層にして炭層の走向南北、傾斜平均一一度—一三度あり。

**炭質及用途** 筑豐炭中炭質優秀にして其質堅剛、火力最も强大なるを以て船舶焚料、製鋼、瓦斯發生爐、製陶、硝子製造、汽罐用に供せらる。

分析成績左記の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黃分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 田川四尺炭 | 二・七八% | 四〇・〇八% | 四八・七五% | 八・三九% | 〇・三一% | 七、二四一（カロリー） |
| 同 八尺炭 | 二・四四 | 四〇・一三 | 四八・九〇 | 八・五三 | 〇・三四 | 七、二三〇 |

同　三尺炭　　二・五〇　　三六・五〇　　四七・五一　　一三・四九　　〇・二八　　六、七五六

現在稼行せる主なる坑名

| | 捲揚機械 | 延長 | 傾斜 | 日産 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 伊田斜坑 | 二二〇馬力 | 一、五五〇米 | 一〇度 | 六〇〇瓲 | エンドレス |
| 右捲卸 | 二二〇 | 一、一〇〇 | 一〇 | | |
| 第三坑 | | | | | |
| 八尺竪坑 | 一、二〇〇 | 三一五 | | 九〇〇 | 排出〕兩段式四函蒸氣捲 |
| 四尺竪坑 | 一、二〇〇 | 三五〇 | | 八〇〇 | 押込〕一日能力兩竪坑に |
| 八尺坑捲卸 | 二二〇 | 一、三〇〇 | | | エンドレス |
| 四尺坑捲卸 | 二二〇 | 七二〇 | | | |
| 第二坑 | 三二〇 | 一、九六〇 | | 八〇〇 | エンドレス |
| 本線斜坑 | 一五〇 | 六〇〇 | | | 同 |
| 本卸 | 二〇〇 | 一、四六〇 | | | |
| 第一坑 | 六〇 | 一八〇 | | 八五〇 | エンドレス |
| 分坑卸 | 四四〇 | 一、六〇〇 | | | |
| 本坑繼捲卸 | 一二〇 | 七三〇 | | | |
| 川崎四坑 | 一〇〇 | 七六〇 | | 二〇〇 | |
| | | | | 計　四、一五〇瓲 | |

**採炭法**　各層共に前進式長壁法により採掘す。拂面の長さは上下磐及び炭層の狀況に依り異るも五



五乃至一〇〇米にして、チエーンカツター、ドリル、ジヤツクハンマー、コールピツク等を用ひ切羽の支柱は主として打柱、鐵柱による、採掘跡は堤防式充塡を行ふ。

坑道掘進又は各層の採炭には空氣壓縮機に一〇〇乃至一五〇馬力三臺、六〇馬力未滿二二臺、計二五臺あり。

採炭機にチエーン型三〇乃至五〇馬力一一、バー型一八馬力乃至四〇馬力一二、計二三、三池型コールドリル五一、ヂヤツクハンマーBAR—33一七、R—12四六、R—39三二、計九五、コールピツク、フロツトマンCA—7三、インガーソルL—29一、計四臺、切羽運搬機にチエーン式及アイコフ式チエーンコンベヤー、ベルトコンベヤー等あり。

**運搬法**　切羽の石炭は直接炭車（〇・五瓲竪坑は〇・七瓲）に又は切羽運搬機により片磐に送出し主として二〇—五〇馬力の逆轉エンドレス又はベルトコンベヤー等により一〇〇乃至二二〇馬力の各坑内卸を經又は直接本捲卸坑道を捲揚げ或は竪坑捲機により坑外に搬出す。

**通氣法**　各坑排氣坑口に固定吸出扇風機シロツコ型二〇萬乃至四萬立方尺の扇風機を備ふ、竪坑には四〇萬立方尺の蒸氣動扇風機を豫備として設置す。

**排水法**　坑内の排水は電動タービンポンプを用ふ、毎分排水量各坑合はせて二一〇立方尺なり。

**選炭法**　各坑に選炭設備を有し坑内より搬出せられたる石炭は總て之を選炭場に送る。

第三坑の選炭機は三吋以上塊、三吋以下を水洗機にて處理す、其の設備は手選機にバンドコンベヤー三、中塊用ジツガー三〇瓲二臺、粉炭用ジヅガー四五瓲一臺及び再選用ジヅガー二五瓲一臺にて水洗す。

精品は三吋以上塊、三吋乃至一吋八分の一洗中塊、一吋以下洗粉とす。

**照明**　坑内の照明は電燈による、從業者には主としてエヂソン並にGS型帽上燈を用ふ、其他ウルフ・ボンネツト型揮發油安全燈あり。

**鑛夫數**　坑内　男三、五五二、女一　坑外　男六一五、女二三　計四、一九〇

**附帶事業**　瓦斯發生所及發電所　モンド瓦斯發生爐一二臺により粗炭を乾餾し發生せる瓦斯を以て瓦斯エンヂン八臺を運轉して發電す。

發電所は出力一、〇〇〇キロワツトの瓦斯汽罐直結發電機八臺を有する外九水より受電するため三、〇〇〇キロワツトの設備を有し山野鑛業所にも電力を供給す。

煉炭工場　各坑の水洗機より生ずる微粉に瓦斯發生所の副産物ピツチを加へマセツク型煉炭を造る現在能力一日約一〇〇瓲なり。



## 七、沖ノ山炭鑛

**鑛業權者**　沖ノ山炭鑛株式會社

**位置**　山口縣宇部市

**鑛區面積**　採掘鑛區　六、四二〇、〇〇〇坪

**鑛産額**　昭和八年　一、〇一六、五二六瓲
昭和九年　一、一四四、六九七瓲
昭和十年　一、一五四、九八七瓲

**地理**　山陽線宇部驛より宇部新川驛を經て小郡驛に至る宇部鐵道あり又宇部電氣鐵道は沖ノ山新沖山間を開通し何れも電車を運轉し旅客及び石炭の輸送をなせり、宇部新川驛より宇部驛に六粁、小郡驛に二七粁、下關市に五〇粁、宇部港より下關に一六浬、大阪に二三〇浬あり。

**地質及炭層**　宇部炭田は厚狹、吉敷兩郡沿岸一帶の陸地及海面に亙り、東西七里南北五里の地域にして南方遠く周防灘の洋心に向ひ廣く分布せり。

含炭層は秩父古生層及花崗岩の上に成層せる第三紀層にして下部中新期に屬す。粘質砂岩及頁岩の互層より成り、上部は概ね五〇―一〇〇尺の沖積層にて覆はる。炭層は十四層あり、主要なるものは

一重石二・二尺、二重石一・五尺、大派五・五尺、五段三・五—四・〇尺、袴腰一・五—二・〇尺、三尺層三・〇尺の六層あり。

走向は東西、傾斜南約三度にして平野より海底に入る、現在稼行個所は海底下一五〇尺乃至六五〇尺に及べり。

**炭質及用途**　沖ノ山炭は宇部元山炭と通稱し、其の分析表下の如し。

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量（カロリー） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 五段 | 八・三〇% | 四〇・九五% | 四〇・五五% | 一〇・二〇% | 一・三二 | 六、一四〇 |
| 一重石 | 六・六五 | 四二・六五 | 三八・〇〇 | 一二・七〇 | 一・六九 | 五、七九〇 |
| 大派 | 七・五〇 | 三六・六〇 | 二七・七〇 | 二八・二〇 | 一・八四 | 四、六一〇 |

沖ノ山炭は不粘結性にして火付容易、煤煙淡く、臭氣尠く、火持良く、焚落となりて火力強烈、殆ど木炭と同一の性能あり。五段、一重石、袴腰は家庭用炭に、大派は鹽田用に供せられ、沖ノ山炭は宇部炭田中炭質最も優良なり。

現在稼行中の主要なる坑名左の如し。

| 坑名 | 捲揚機 | 延長 | 傾斜 | 日産 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 五段竪坑 | 六〇〇馬力 | 一〇〇米 | — | 四、〇〇〇瓲 | イルグナー式四函捲 |
| 幹線大通 | 二〇〇馬力 | 四、三七〇米 | 三度 | — | 二〇〇馬力エンドレス三段繼 |
| 大派竪坑 | 三〇〇馬力 | 七六米 | — | — | 一重石をも捲く |
| 排氣風道 | 三〇〇馬力 | 二、九〇〇米 | — | — | エンドレス |

**採炭法**　海水浸入の防止と炭層が厚き沖積層に被覆せられ開坑頗る困難なりし爲め、竪坑は六角蒸枠、斜坑には斜坑蒸枠を用ひ、完全に防水せられ當炭田唯一の開坑法なりしが、明治四十一年竪坑開鑿にウエルシンキングを用ひ其後沖ノ山炭鑛にて圓筒型のケーソンを海底に据え付け、之を積み重ね第四紀層を開鑿せり。

採炭は殘柱若しくは長壁式採炭法により、沖合に向ひ掘進し現在海岸を距る四・四粁に達せり。坑道の掘進又は採炭は專ら手掘方法に依り、採炭には發破を用ひず、掘進には電氣ドリルを使用す。

**運搬法**　切羽の石炭は直接炭車に積み又は五—七・五馬力のチエーンコンベヤーを用ひ、片磐は一五馬力のテールロープにて斜大通しに出し五〇—一〇〇馬力のエンドレスにて幹線大通しに至りエンドレス三段繼にて竪坑底に集まり、坑外に搬出するものとす。

**通氣法**　排氣竪坑には固定吸出扇風機シロツコ型一五萬立方尺の扇風機を設備す。

**排水法**　坑内水は電動タービンポンプにより排水す。各坑の排水量合せて毎分七〇立方尺に及び喞筒は二〇馬力、タービン喞筒二臺、ヴルチエル三〇〇馬力二臺、其他各所に五—一五馬力のものあり。

**選炭法**　五段及一重石炭の選炭は手選機にセーキングスクリーン五臺、ピツキングバンド五臺にて

塊粉に分ち、一吋二分ノ一以上塊、以下粉とす。粉炭は三〇瓲共益社式水洗機一臺及び五〇瓲バウム型有槽式水洗機二臺及び三〇瓲共益社式再選機により精選す、大派炭は萬石及び手選に依り選別す。精品は一吋二分ノ一以上塊、一吋二分ノ一以下一六分ノ三吋粉炭、一六分ノ三以下微粉とす。

貯炭場は鐵筋コンクリート上家建にして屋内に三瓲グラブバケツトの設備あり。

積込機は貯炭場前面岩壁に立ち上部橋梁上を四瓲スキツプを有する電車走行す。一時間の能力一八〇瓲なり。ベルト式積込機は幅三〇吋、粉炭は全部之に依り荷役し、一時間の能力二〇〇瓲なり。

**照明**　安全燈は主としてGS帽上燈を用ひボンネツト型揮發油安全燈を併用す、一部にアセチレンランプを使用す。

**鑛夫數**　坑内　三、八六一　坑外　一、二八八（内男五三六、女七五二）
計　五、一四九

**附帶事業**　事業用動力は總て同所の縣營火力發電所より受電す。

## 八、東見初炭鑛

**鑛業權者**　東見初炭鑛株式會社

**位置**　山口縣厚狹郡宇部市

**鑛區面積**　採掘鑛區　六、五四一、三〇一坪

**鑛産額**　昭和八年　五六六、七一三瓲
昭和九年　六四九、四二七瓲
昭和十年　六八七、四五三瓲

**地理**　東見初炭鑛は宇部市の東端約二粁にして鑛所に近く宇部鐵道の宇部岬驛あり。

**地質及炭層**　地質は沖ノ山炭鑛と同樣第三紀層にして下部中新期に屬す主なる炭層は五段四・五尺大派五・五尺、一重石二・三尺の三層を稼行す、傾斜概ね三度なり。

**炭質及用途**　炭質は沖ノ山炭と同じく石炭の分析次の如し。

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 一重石炭 | 九・四五% | 三六・三四% | 四五・二七% | 八・九四% | 二・〇二 | 五、七一八（カロリー） |
| 大派炭 | 一〇・二二 | 四六・三七 | 三一・九九 | 一一・四二 | 三・四一 | 五、五九九 |
| 五段 | 一一・八三 | 四三・二〇 | 三九・五三 | 五・四四 | 一・四九 | 五、八〇六 |

主なる用途は一重石炭及大派炭は鹽田用に供し、五段炭は家庭用に供す。

現在稼行中の主要なる坑名

| 坑名 | 馬力 | 延長 | 傾斜 | 日産 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 竪坑 | 蒸汽捲 二二吋 | 一〇〇米 | — | | |
| 斜坑 | 二五〇〃 | 三二八米 | 一七度三〇分 | — | エンドレス（補助捲） |
| 幹線大通 | | 五、三七〇米 | | — | 二五〇馬力 二五〇馬力 一、八二〇米 二、〇〇〇米 一、五五〇米 三段繼 |
| 竪坑 | 三〇 | 七八米 | | | ケーペ捲機（排氣、人道） |
| | | | | 計 二、三〇〇瓩 | |

**採炭法**　採炭法は殘柱及長壁式を併用し、石炭は直接〇・五瓲炭車に積込み又はチエーンコンベヤーにて片磐に搬出す、切羽跡は局部充塡をなす。

坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機三五馬力横置式一、ロータリー五〇馬力一、チエンコンベヤー九臺、採炭機にコールピツクムードン型二〇臺あり。

**運搬法**　切羽の石炭は直接炭車若しくはチエンコンベヤーにて片磐に搬出し七馬力半コース捲又は一五馬力ヱンドレスにて斜大通に運び五〇—八〇馬力のヱンドレスにより幹線大通に至り三段繼主要ヱンドレスにて竪坑下に集め、坑外に搬出す。

**通氣法**　排氣坑口には容量二〇萬立方尺のシロツコ型扇風機一臺及び別に二〇萬立方尺のラトウ型扇風機を設備し、坑内の通氣を計る。

**排水法**　坑内水は電動タービンポンプにより坑外に排出す、各所排水量合せて二八〇立方尺あり、喞筒はタービンポンプ一〇〇馬力乃至二〇〇馬力一四、八〇立方尺ヂユープレツクス二臺、六〇立方尺ヱバン一、タービン五〇馬力一〇、三〇—一〇馬力八臺あり。

**選炭法**　五段炭及一重石炭の選炭はジンマースクリンにて篩分けバンドコンベヤーにて手選し粉炭はバウム又は共益社式水洗機に依り水洗す。

其設備次の如し。

| | | |
|---|---|---|
| 五段 | ジンマースクリーン三、バンドコンベヤー三、バウム水洗機三五瓲一 | |
| 一重 | ジンマースクリーン二、バンドコンベヤー二、共益社水洗機三五瓲一 | |
| | 〃 | 二〇瓲一 |

精品は五段の塊一吋四分の一以上、一吋四分の一乃至一六分の三吋洗粉、一重石は一吋四分の一及一吋二分の一吋以上塊の二種とし、其れ以下各〻洗粉炭にして一六分の三吋迄とす。

大派は萬石にて一吋四分の一以上及び以下に篩分け塊炭は手選す。

坑所より船積迄の送炭はベルトコンベヤー及人力により一日能力六、〇〇〇瓲なり。

一時間の手積能力一五〇瓲、炭積機に依れば一時間五〇〇瓲なり。

**照明**　坑内照明は主としてGS鉛蓄電池帽上燈及手提燈を用ひ、別にボンネツトウオルフ揮發油安全燈の設備あり。

**鑛夫數**　坑内　二、六五三　坑外　二、一六六　計　三、八一九

## 九、夕張炭鑛

**鑛業權者**　北海道炭礦汽船株式會社

**位置**　北海道石狩國夕張郡夕張町

**鑛區面積**　採掘鑛區　一二、六〇二、〇〇〇坪

**鑛産額**　昭和八年　一、〇七四、九八七瓲

昭和九年　一、一六九、二四八瓲

昭和十年　一、三一四、〇〇〇瓲

**地理**　夕張町の北端にあり海抜三三三米、省線夕張驛は炭鑛と市街地の中間に位し室蘭に一四五粁、小樽に一五八粁なり、又市街の南端に夕張鐵道會社線新夕張驛あり、室蘭線栗山驛を經て野幌驛迄五三粁、小樽迄一〇五粁なり。

**地質及炭層**　地質は下部第三紀層に屬し夾炭層は頁岩及砂岩の互層よりなる、炭層は南北凡そ八粁一五乃至二〇度の傾斜にて東北に走り深部に進むに從ひ傾斜緩となり二乃至六度となる石狩炭田下層群に屬し炭層三枚あり、上層四尺本層二四尺内合磐〇・四尺及び三尺のもの二枚あり之によりて本層を六、八、一〇尺の三層に分つ、下層は厚さ四尺あり、現在稼行中の炭層は本層を主とす。

**炭質及用途**　粘結性瀝青炭にして火力強烈堅緻にして粉碎すること少し、瓦斯製造用としては本邦炭中匹儔なく又骸炭製造、汽罐燃料として賞用せらる。

新夕張坑の炭層は夕張本層の連續にして延て若菜邊に連る厚さ上部より六、八、一〇尺の三層あり尚其の上層に三尺六尺の二層あり、傾斜一〇度乃至七〇度なり。

分析左表の如し。

| 種別 | 水分 % | 揮發分 % | 固定炭素 % | 灰分 % | 硫黄分 | 窒素 | 發熱量 カロリー |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 夕張 | 一・一八 | 四三・七二 | 五一・一三 | 二・〇四 | 〇・三四 | 一・三二 | 八、二八五 |
| 新夕張 | 一・五一 | 四三・一九 | 四九・五七 | 五・七三 | 〇・二五 | 一・四二 | 七、五九〇 |

現在稼行中の主要なる坑名。

| 坑名 | 捲揚機械 馬力 | 延長 米 | 傾斜 度 | 日産 瓲 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 天龍坑 | 一五〇 | 一、〇〇〇 | 一八 | 八〇〇 | 循環機 |
| 石狩坑 | 一五〇 | 一、五〇〇 | 一四 | 八〇〇 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大新坑 | 二〇〇 | | 一一六 | |
| 北上坑 | 一五〇 | | 八五〇 | |
| 千歳坑 | — | | 水平 | 循環機 |
| 最上坑 | 一五〇 | | 一五〇〇 | |
| 橋立坑 | — | | 水平 | |
| 松島坑 | 八〇 | | — | |
| 角田坑 | — | | 水平 | |
| | | | 九〇〇 | |
| | | 竪坑 | 七〇〇 | |
| | | 五 | 七〇〇 | |
| | | — | 六〇〇 | |
| | | 一三 | 七〇〇 | |
| | | — | — | |
| | | 一二 | 七〇〇 | |
| | | — | 三〇〇 | |
| | | 計 | 五、三〇〇 | |

其他主要なる斜坑には八〇—一〇〇馬力の捲揚機を設置す。

**採炭法**　切羽面の長さ七〇乃至一〇〇米の片磐向前進式長壁採炭法を行ひ、採掘は八尺、六尺、十尺の順にして拂跡は灑水充塡或は帶狀乾式充塡を行ふ、支柱は木柱又は鐵柱を施し、採炭には主としてコールピツクを用ひ採炭用の使用爆藥量甚だ少し、坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機にロータリー及レシプロの兩型を用ひ、全坑にて一〇〇—三五〇馬力一一臺、一〇〇馬力未滿のもの三〇臺、總計四一臺、截炭機にはコールピツク、空氣動フロツトマンCA—7型二八九、同CA—10型八、同CE—13型、一計二九八、ハンマードリル空氣動フロツトマンAZ—11四、同AZ—17二〇、デンバーモデル11二六、インガーソルBAR—33九臺、計五九臺、切羽運搬機にセーカーコンベヤー二三、チエンコンベーヤー一、ベルトコンベヤー一八、(幅二四吋—三〇吋延長二、八二四米)ベルトコンベヤーは切羽、ゲートロード、小斜坑、竪入等に使用す。

**運搬法**　シエーキングコンベヤー又はベルトコンベヤーにより〇・八瓲炭車に積載し水平坑道は單線エンドレスを用ひ坑內卸は五〇—一〇〇馬力のエンドレス又はホーリング捲揚機にて捲上げ竪坑又は本斜坑に至り各種捲揚機に依り坑外に搬出せらる。

夕張礦新夕張及角田礦は坑口よりエンドレス又は電車にて運搬し電車は四瓲乃至六瓲二〇臺にて選炭積込場に運び省線により運搬す、角田坑は夕張鐵道新二股驛より支線四粁强にて選炭場に至る同坑々口選炭機間二粁あり電車にて搬出す。

石狩卸一、三五〇米傾斜一四度は四二吋ベルトコンベヤー(一三〇馬力八臺)左五坑道及大新坑間約一、六六〇米は三〇吋のベルトコンベヤーとなり近く運轉の豫定なり。

**通氣法**　各坑とも機械通氣法により扇風機は四—五萬立方尺のシロツコ又はチヤンピオン扇風機を設備し尙深部風道を各坑に開鑿しシロツコ型一五—二〇萬立方尺の扇風機を据付く。

**排水法**　水準以下の湧水は各種喞筒を以て揚水す各坑の排水喞筒は一〇〇立方尺二三臺、一二〇立方尺三臺、二〇〇立方尺二臺、五〇立方尺未滿八臺あり。

**照明**　全部エヂソン帽上燈を使用す。

**鑛夫數**　坑內　男二、六〇七　女　—　坑外　男一、〇〇一　女一三〇計三、七三八

**選炭法**　本坑選炭場は一日三、五〇〇瓲の能力を有し大塊二吋半以上、中塊二吋半—一吋、粉炭一吋以下の三種に篩分け中塊粉炭共に樋流式水洗機にて精選す。商品炭は大塊、洗中塊、二塊、特粉、一粉の五種とす。

設備概要左の如し。

本坑　デンマースクリーン六、ピツキングバンド六、中塊用樋流式水洗機二、粉炭用同上二、ダイスターテーブル一、

丁未　ジンマースクリーン三、手選機八、ピツキングバンド一、マーカス二、樋流式水洗機中塊用二、粉炭用二臺あり。

**附帶事業**　清水澤に一二、〇〇〇キロワツトの火力發電所、瀧之上に二、四〇〇キロワツトの水力發電所、夕張に一、五〇〇キロワツト二及び一、〇〇〇キロワツト三臺の火力發電所あり。

夕張に工作場あり事業用機械器具の製作修理をなす。

煉炭工場年間三萬瓲能力のもの若鍋に計畫中なり。

## 一〇、三菱美唄鑛業所

**鑛業權者**　三菱美唄鑛業株式會社

**位　置**　石狩國空知郡美唄町字美唄

**鑛區面積**　採掘鑛區　六、五八六、三〇〇坪

**鑛産額**　昭和八年　八四二、八五三瓲

昭和九年　九〇六、七四〇瓲

昭和十年　九四三、五一二瓲

**地理**　鑛區は美唄町及三笠山村の兩町村に跨り南北約一二粁東西約四粁主として美唄川上流及其支流ウエンシリアンビバイ川の流域を占め北方は奈井江炭田に南方は奔別及峰延炭田に接す。

美唄炭山驛は省線美唄驛より八粁、手宮、室蘭、函館を距る夫々一〇一粁、一六五粁、三四七粁の地に在り、常盤臺驛は竪坑所在地にして美唄炭山驛より上ること二粁なり。

**地質及炭層**　地質は第三紀層の下部にして石狩炭田中層群及下層群に屬し砂岩、頁岩の累層より成り十數層の石炭層を夾有す中層群の最下位にあるを本層と稱し厚さ六尺、其の上層は二、三、四、五番層と稱し厚さ各平均四尺內外なり、下層群は六、七、八、九、十番層の五層を有し厚さ五尺乃至八尺あり。

本鑛區はウエンシリアンビバイ川に沿ふ斷層により南北に分たれ第一坑及第三坑は南部に、第二坑、竪坑、美唄通洞は北部に屬す、南部は傾斜緩にして平均七度あり北部は竪坑附近は傾斜約一三度、第

二坑約二七度、通洞坑は炭層の傾斜約六五度水準以上を採掘す。

**炭質及用途**　不粘結性にして夾雑物少なく、火付良く、發熱量強く、火持良きを以て用途廣く、鐵道、汽罐、船舶、工場、家庭用炭に適す。

分析成績下の如し。

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 塊炭 | 二・〇% | 四二・五% | 五一・〇% | 四・五% | 〇・三 | 七、五〇〇カロリー |
| 中塊炭 | 二・五 | 四二・五 | 四九・〇 | 六・〇 | 〇・三 | 七、四〇〇 |
| 粉炭 | 三・〇 | 四一・〇 | 四七・〇 | 九・〇 | 〇・四 | 七、一〇〇 |

現在稼行中の主要なる坑名。

| 坑名 | 捲揚機械 | 延長 | 傾斜 | 日産 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第一坑 | 五〇馬力 | 六〇〇米 | 一度 | 七〇〇瓲 | 水平坑エンドレス |
| 第二坑 | — | — | — | 七〇〇 | 水平坑 |
| 第三坑 | 二〇〇 | 一、四〇〇 | 二 | 六〇〇 | 捲機は坑内外兼用斜坑エンドレス |
| 竪坑 | 六七五 | 一七〇 | — | 一、五〇〇 | 兩段式二函捲 |
| 美唄通洞坑 | — | 二、〇〇〇 | — | 計 三、五〇〇 | |



**採炭法**　採炭法は區劃式、片磐向長壁退却拂にして長壁拂面の長さは五〇米乃至一〇〇米、採炭に長壁式電氣コールカツター、電氣ドリル、空氣ポンチヤードリル、コールピツク等を併用し切羽及片磐運搬機を用ひ集約採炭をなす、採炭跡は帶朶手詰充塡を行ふ。

切羽運搬を炭車直積、急傾斜の自然流下法を除く以外は概ね機械コンベヤーに依る、坑道掘進又は採炭には

壓搾機　一〇〇馬力乃至一七〇馬力横置式三臺、七五馬力未滿六臺

截炭機　チエンカツター一九、内CLE—2一二、バーカツター二、ショウトウオールマシン四、ラジアルカツター一八、コールパンチヤー五、電氣ドリル七五、ジヤツクハンマー八七、コールピツク三四

切羽運搬機　シエーカーコンベヤー一三、チエーンコンベヤー一〇(一〇馬力乃至一五馬力)、ベルトコンベヤー三(一〇馬力)、カーローダー一(三馬力)、ゲートローダー一、ダツクビル三、スクレーパー・ローダー一、テールロープ一六(一〇馬力)

**運搬法**　片磐運搬は五瓲蓄電池機關車三臺一〇乃至三五馬力、テールロープ捲六乃至一〇馬力タツガーホイストにより、昇、卸坑道には電氣捲揚機を用ひ竪坑底、水平坑道は架線式五瓲乃至六瓲電氣機關車五臺を使用す。

各坑々内の主要なる斜坑には一〇〇—乃至三〇〇馬力の捲揚機を設置す、竪坑捲には入氣竪坑に石炭捲揚電動六七五馬力、排氣竪坑には人車、材料捲に電動三〇〇馬力捲機を備ふ、一日二、〇〇〇瓲の能力あり。

坑口より選炭場迄の運搬は第一坑は六瓲乃至八瓲の蒸氣機關車六臺、第三坑はエンドレス捲により第二坑は三瓲乃至五瓲蓄電機關車二臺により搬送せられ、第一坑と合せ本坑選炭場に至る、通洞は八瓲電車二臺及五瓲蓄電車一臺により竪坑選炭場に運搬せらる。

炭車の容量は木製〇・八瓲、鐵製一・一瓲、通洞坑は二・四瓲。

**通氣法**　各坑共主要扇風機を据付け吸出式通氣法により竪坑は二〇萬立方尺ラトー式扇風機、其他の坑は四萬立方尺キヤペル式又は八萬立方尺のシロツコ式扇風機を据付く、第二坑は自然通氣なり。

**排水法**　各坑共湧水量僅少にして第二坑の自然排水を除きては何れも電氣喞筒を備へ排水す。

排水設備は各坑に四〇馬力乃至一〇〇馬力の喞筒各一臺を据付く其の水量は計毎分四五立方尺なり。

**選炭法**　竪坑選炭場はジンマースクリーンにて塊炭二吋以上、中塊炭二吋乃至一吋、粉炭一吋以下に篩分け塊炭及中塊炭は手選に依る塊炭、中塊炭、粉炭は之を選別し別に水洗機を用ひず一日二、〇〇〇瓲の能力あり。

選炭設備左の如し。

竪坑選炭機　ジンマースクリーン三、ピツキングバンドコンベヤー四、

本坑選炭機　ジンマースクリーン六、バースクリーン三、ピツキングバンドコンベヤー三、水洗機は主選機共益社式三五瓲二臺、再選機同二五瓲一臺なり。

**照明**　主としてエヂソン、ウルフ及GS型帽上安全燈を携帶せしめ揮發油安全燈は殆んど係員のみ使用し瓦斯檢定用とす。

**鑛夫數**　坑内　男一、六〇三　女　—　坑外　男五五〇　女四四　計　二、一九七

**附帶事業**　瀧ノ澤發電所に三、六〇〇キロワット發電機二臺あり、各坑に送電す。

機械工場を設け、仕上、旋盤、鍛冶、鑄物、木型、製鑵の各部に分ち、炭坑諸機械の製作修繕をなす。

## 一一、砂川鑛業所

**鑛業權者**　三井鑛山株式會社

**位置**　北海道空知郡砂川町、歌志内村

**鑛區面積**　採掘鑛區　一二、一八四、七〇〇坪

鑛産額　昭和八年　七一〇、七一九瓲
昭和九年　七七五、三五三瓲
昭和十年　八六〇、一三七瓲

**地理**　砂川驛より東南方約七粁の支線上砂川驛附近にあり、文珠坑には砂川神威間に積込場の設けありて神威驛より省線に依る、上砂川、小樽間は一一八粁、上砂川室蘭間一八三粁、上砂川、函館間三六九粁なり。

**地質及炭層**　地質は下部第三紀層に屬し炭層は下層群、中層群、上層群の三層に分たれ現在下層群中層群を稼行す、鑛區の面積廣大にして炭層の狀況亦一樣ならず、炭層は傾斜一三度乃至七〇度西に傾斜す、中層群は七番下層、七番、八番上層及下層、九番層、十番層、十一番層の七層あり、厚さは八番の上下層及九番層は六尺乃至八尺、其の他の炭層は厚さ四尺乃至五尺なり。
文珠坑にても同じく中層群八番下層及び上層、九、十、十一番層の五層ありて八番上下層及九番層は厚さ五尺乃至六尺其の他の炭層は四尺乃至五尺なり。
下層群は零番層より六番層及新七番層の八層あり、厚さ二番層、四番層は六尺乃至八尺、其他の層は三尺乃至五尺なり、而して現在稼行中の炭層は中層群にては八番乃至十一番の四層、下層群にては一番乃至四番の四層なり。

**炭質及用途**　炭質は何れも緻密にして漆黒の光澤を有し粘結性に富み瓦斯分豐富にして發熱量大なり、用途は汽罐用及瓦斯又は骸炭製造用に適す。

其分析表下の如し。

| 種別 | 水分 % | 揮發分 % | 固定炭素 % | 灰分 % | 硫黄分 % | 發熱量 カロリー |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一坑 | 一・九〇 | 四五・八四 | 四九・一三 | 四・三九 | 〇・四二 | 七、八九〇 |
| 第二坑 | 一・三三 | 四一・八五 | 五二・七二 | 四・一〇 | 〇・一三 | 八、〇五四 |
| 文珠坑 | 二・〇九 | 四一・六八 | 五一・五五 | 四・六八 | 〇・九六 | 七、八五五 |

現在稼行中の主要なる坑名左の如し

| 坑名 | | | 捲揚機械 馬力 | 延長 米 | 傾斜 度 | 日産 瓲 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一坑 | 第一斜坑 | | 二五〇 | 七〇〇 | 二〇 | 六〇〇 | |
| | 第三斜坑 | | 二〇〇 | 四〇〇 | 二〇 | | |
| 第二坑 | 第一斜坑 | | 四〇〇 | 五〇〇 | 三〇 | 六〇〇 | |
| | 第二斜坑 | | 四〇〇 | 五〇〇 | 三〇 | 四〇〇 | |
| | 第三斜坑 | | 一〇〇 | 三八〇 | 二七 | 三〇〇 | |
| 第三坑 | 竪入坑道 | | | | | 三、〇〇〇瓲 | |
| 第四坑 | | | | 五〇〇 | | | |
| 文珠坑 | 第三坑斜坑 | | 二五〇 | | | | |

其の他主要なる斜坑には一〇〇―三〇〇馬力の捲揚機を設置す。

**採炭法**　斜向長壁充塡採炭にては拂面の長さ八〇米内外にして切羽面は炭層に僞傾斜三〇―四〇度としドリルにて採炭し拂跡は充塡を行ふ、傾斜一三度乃至四〇度の切羽に四〇―八〇米の採炭面にてカツターを用ひ長壁式採炭を行ひ拂跡は帶狀充塡をなす、坑道の掘進又は採炭には空氣壓縮機五〇馬力未滿のもの四、九〇馬力六、一七五馬力二、二〇〇馬力二、截炭機サリバンCLE―2七、三池MCE―3二、サリバンCLE二、サリバンCH―8二、コールピツクCA―7型一五八臺、鑿岩機R―39型四二、AZ―11型六四、BAR―33型二一、S四九型一、計一二八臺、オーガードリル空氣動インガーソルC型一三臺、同電氣動シーメンスE―432一二臺、三池MDE四三臺、三池MDE―2九臺　合計七七臺、切羽運搬機チエーンコンベヤー二〇臺、五―一〇馬力小型捲機六・五―一五馬力あり。

片磐運搬用エンドレス機二〇―三〇馬力九臺

**運搬法**　切羽運搬には五―一〇馬力チエーン式コンベヤー二臺を使用し傾斜急なる箇所にありては鐵板製樋又は急傾斜用コンベヤーを使用し自然落下をなさしむ、片磐坑道にては六―一五馬力捲揚機械を使用する外二〇―三〇馬力エンドレス機九臺、三・五瓲蓄電池式電氣機關車二臺、炭車は木製〇・八瓲及〇・九瓲、鐵製二―三瓲を以て運搬す。

第一坑に捲揚原動機二五〇馬力一、二〇〇馬力一、第二坑に四〇〇馬力一、一五〇馬力二、文珠坑に二五〇馬力一、等を以て坑外に搬出し選炭場に送る。

選炭場より四坑迄約六・四粁、二坑第二斜坑迄約四・八粁、三坑々口まで二・七粁の距離あり此の間電車を用ふ、電車は能力四―五瓲五臺、六瓲八臺、八瓲四臺、計一七臺あり。

**通氣法**　各坑とも坑外に主要扇風機シロッコ型五萬乃至一四萬立方尺一〇臺、チヤンピオン型二萬、プロペラー型四萬立方尺各一臺を使用す。

**排水法**　斜坑の排水は坑底に喞筒を設置して之を行ふ、喞筒は砂川坑にタービン式一〇―八〇馬力三一、プランジヤー式一〇―二〇馬力二一、文珠坑にタービン式一〇―三〇馬力五、ブランジヤー式一〇馬力一、ウオシントン式六臺あり、毎分排水量各坑合計六四立方尺なり。

**選炭法**　スクリーンにて大塊二・五吋以上、中塊一吋以上及粉炭に分級す、塊炭は手選により磐石を摘出し中塊は跳汰機に送り水洗す、中塊廢石は再洗機により縞炭を採收しクラツシヤーにて粉炭に破碎し粉炭水洗機には洗粉炭、縞炭及硏に選別處理す、一吋以下の粉炭は大部分其儘積込ポケツトに送り一部分は粉炭跳汰機により水洗す、一日處理能力約三、三〇〇瓲なり。

其設備左の如し。

ジンマースクリーン五臺、バンドコンベヤー五臺、中塊ジツガー五〇瓲四臺、再選ジツガー三臺、

粉炭水洗機ジツガー一〇〇瓲二臺、一日二、〇〇〇瓲能力のもの增設中なり。

文珠坑にはスクリーン一臺、バンドコンベヤー一、跳汰機一、再選跳汰機一あり、粉炭は未洗の儘發送し中塊は水洗す篩目は上砂川と同型なり。

**照明**　坑內照明には主としてエヂソン帽上燈及GS帽上燈を用ひボンネツトウルフ安全燈を併用す主要坑道には電燈を備ふ。

**鑛夫數**　坑內夫　男一、四四〇　女一　坑外夫　男四五六　女五七　計一、九五三

**附帶事業**　五〇〇キロワツトの火力發電所あるも大日本電力株式會社より供給を受く、受電設備として三、〇〇〇キロワツト變壓器を備ふ。

## 一二、好間炭鑛

**鑛業權者**　古河石炭鑛業株式會社

**位置**　福島縣石城郡好間村

**鑛區面積**　採掘鑛區　二、六〇四、一四五坪
昭和八年　二〇二、四三五瓲
昭和九年　二三〇、三〇七瓲

昭和十年　二六四、五六六瓲

**地理**　常磐線綴驛より西北五粁六、平町の西北三粁二にありて平—上野驛間二一二粁なり、湯ノ嶽、赤井嶽は西北を擁し、鑛區の西北部一帶は小丘陵にして他は概して平坦なり、綴驛—山元間には五粁六の運炭專用鐵道を敷設し交通運輸共に便なり。

**地質及炭層**　地質は第三紀層に屬する砂岩・蠻岩・頁岩の互層より成る、露頭は南より北に走り花崗岩よりなる赤井嶽の山麓に至り之に接觸潛在し西北赤井に至りて東方に彎曲し再び露頭を現す。炭層は走向約南北にして傾斜は平均東九度なり、本鑛區內稼行可能の炭層は二層あり、上層は平均六尺、內一寸乃至三寸の夾みを有し本層は七尺、內二寸の夾みを有し地下深度を增すに從ひ炭質變化す。

**炭質及用途**　炭質は二層共褐炭にして粘結性無く且灰分少く燃燒に際し黑煙を生ぜず主として家庭用に適す。

其の分析表左の如し。

| 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黃分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一〇・五九% | 四二・五一% | 三三・七一% | 一三・一九% | 三・一一 | 六、二六九カロリー |

現在稼行中の主要なる坑名。

| 坑名 | 捲揚機 | 延長 | 傾斜 | 日産 |
|---|---|---|---|---|
| 第二新斜坑 | 三〇〇馬力 | 一、〇〇〇米 | 一六度 | 一、〇〇〇噸 |

**採炭法**　原則として後退長壁式を採用するも、炭床に變化多く天磐不良の際は柱房式を併用す、從つて採炭作業は採炭準備の坑道開鑿と拂採炭の二つに區別す、採炭作業は凡て機械掘にして主としてコールピツクを用ふ、使用機械次の如し。

空氣壓縮機に一五〇馬力二、一〇〇馬力一、採炭機にコールピツク八八、ジヤツクハンマー足尾式二〇番四一臺あり。

**運搬法**　切羽運搬は主として軌條を切羽面に沿ひて設け、二〇—三〇馬力の電氣捲揚機により〇・八噸鐵製炭車を切羽面に捲揚又は捲卸をなし、片磐坑道は炭車手押又は電氣捲揚機に依り主要水平坑道に至り六噸電車四臺にて斜坑底に集中し、坑外電氣捲揚機三〇〇馬力に依り坑口に捲揚げ選炭場に送る。

**通氣法**　高さ八〇〇尺の排氣竪坑々口に能力一五萬立方尺の電動扇風機を設置し通氣を計る。

**排水法**　坑内各所の湧水は小型喞筒又は採掘區劃内の中間喞筒に依り主要水平坑排水路に揚水し排氣竪坑々底喞筒座に集中せしめ坑外へ排水す。

現在平時排水量は毎分約一二〇立方尺、使用ポンプは三〇〇立方尺七〇〇馬力二臺、二〇〇立方尺五〇〇馬力二臺、一〇〇立方尺二五〇馬力一臺、一〇〇立方尺三〇〇馬力一臺等を備ふ。

竪入斜坑其他要所に堅固なる防水ダムの設備ありて不時に備ふ、其の設備左の如し。

| 種別 | 個數 | 設備箇所 |
|---|---|---|
| 好間製復線ダム | 一 | 主要運搬水平坑 |
| 同　單線ダム | 一 | 主要人道水平坑 |
| 同　單線ダム | 一 | 電車坑五八〇竪入 |
| 同　排氣ダム | 一 | 電車坑五八〇竪入排氣坑 |
| 同　單線ダム | 一 | 八〇〇昇 |
| 同　排氣ダム | 一 | 八〇〇排氣昇 |
| 同　單線ダム | 一 | 電車坑七六竪入 |
| 同　排氣ダム | 一 | 電車坑七六竪入排氣坑 |
| 同　單線ダム | 一 | 一卸四六〇斜卸 |
| 同　排氣ダム | 一 | 一卸四四〇斜卸 |
| 同　單線ダム | 一 | 七五五卸 |
| 同　單線ダム | 一 | 六九〇卸 |
| 同　排氣ダム | 一 | 四七〇排氣卸 |
| 獨逸製ダム | 一 | 八〇〇昇ダム奥 |
| 内地製小型ダム | 一 | 排氣水平坑八〇〇昇排氣奥 |

**選炭法**　設備機械及系統左の如し。

新設選炭機の手選設備はスクリーン三、バンドコンベヤー三、現在の水洗機はバウム型三〇瓲一、共益社式一〇瓲一臺あり、水洗機は近くバウム型有槽式四〇瓲二、二〇瓲二臺据付の計畫にして一日能力一、五〇〇瓲なり。

**照明**　坑內照明は電燈に依る、尙一般從業員は矢野式携帶電燈を使用し坑內係員は安全燈を使用す。

**鑛夫數**　男九五四、女一五〇、計一、一〇四（坑內四七四、坑外六三〇）

**附帶事業**　諸機械運轉の動力は總て電力にして之が供給は主として自家用火力發電に依る、發電所は好間村字小田郷にあり、發電機はウエスチングハウス七五〇キロワット二ブラウンボベリー二、二五〇キロワット一臺、計三、七五〇キロワットの設備あり。

## 一三、磐城炭鑛

**鑛業權者**　磐城炭礦株式會社

**位置**　福島縣石城郡內郷村

**鑛區面積**　採掘鑛區　七、〇八九、三六二坪

**鑛產額**　昭和八年　七八六、九三〇瓲

昭和九年　八七八、七九四瓲

昭和十年　七九八、一一八瓲

**地理**　內郷炭礦は常磐線綴驛附近に在り、第二磐城炭礦は湯本驛より分岐せる專用線に沿ひ二粁あり、綴驛・隅田川驛間二〇四粁なり。

**地質及炭層**　第三紀新鮮期に屬し阿武隈山系湯ノ岳の東麓より太平洋に面する常磐炭田の中部一帶より遠く茨城縣多賀郡高萩に及び地形は一般に海拔百米內外の波狀をなせる丘陵地にして其基盤は古生紀岩類或は花崗岩及閃綠岩等の深造岩にして炭層を包藏する第三紀層は砂岩・頁岩・蠻岩及凝灰岩の累層よる成り主要なる炭層は殆んど下部に夾在す。

鑛區內烏館斷層及其他二三の斷層を除きては大なる變位を認めず、殆んど地層整合し炭層の露頭は常磐炭田を通じ、古生紀岩類又は深造岩類と下部第三紀層との接合地域に露はる、炭層は走向南北、東十度內外の傾斜をなす、有煙鑛區內の炭質優良なるもの數層あるも現在稼行中のものは上層七尺、本層八尺、下層五尺乃至六尺、五番層五尺の四層なり。

**炭質及用途**　內郷炭礦產出炭は不粘結性にて發熱量高きを以て一般汽罐焚料、セメント工業に好適し汎く諸工業用に供す。

其分析表左の如し。

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 高坂坑炭 | 八・四五% | 四〇・三〇% | 三八・四三% | 一二・八二% | 二・四六 | 六、二八三カロリー |
| 綴坑炭 | 四・八九 | 四四・〇一 | 四二・〇六 | 九・四 | 三・〇七 | 七、〇九七 |

現在稼行中の主要なる坑名。

| 坑名 | | 捲揚機馬力 | 延長米 | 傾斜度 | 日産噸 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 綴坑 | 竪坑 | 二二吋蒸氣捲 | 一七六 | 一 | 一、五〇 | 二函捲 |
| | 東斜坑 | 一六吋蒸氣捲 | 一、〇〇〇 | 二二 | | |
| | 綴新斜坑 | 二二〇 六〇〇 | 一、五〇〇 | 一四 | | |
| 住吉坑 | 本線斜坑 | — | 一、六〇〇 | 五四〇 | | |
| 町田坑 | 新斜坑 | 一二〇 | 六〇〇 | 二〇 | | 第一本線、第二本線共 |
| | 高坂二坑 | | | 六五〇 | | |
| | 本斜坑 | 一五〇 | 五一〇 | 一五 | | 高坂本坑口一六吋三五〇馬力あり |
| 第二磐坑 | 本斜坑 | 六〇 | 三六〇 | 二〇 | | |
| | 二坑 | 六〇 | 二三〇 | 一六 | 一〇〇 | 豫定 四五〇米 |
| | 本坑 | — | 四七 | 一八 | 同 一、三七〇米 | |
| | | | | 計 | 三、〇二〇 | |

二坑は長倉坑口より一、八二〇米の坑外軌道あり蒸氣機關車により運搬し選炭機に至る、第二磐坑は將來出炭年額四〇萬瓲の計劃なり。

**採炭法** 鑛區の形狀又は鑛床の位置斷層等により前記數坑に區分し各坑口は主要幹線坑たる入氣坑、排氣坑及運搬坑等を掘進延長し、斜坑の兩側は一定區域に分割し各區劃內の採炭は主要幹線より更に通氣運搬の片磐坑道を掘進し前進式或は後退式長壁法により採炭切羽を絶えず一小部分に限定集中し短期間內に迅速に一區劃內の作業を終了せしむ。

坑道掘進は採炭には空氣壓縮機六〇馬力一、一〇〇乃至二六〇馬力五、採炭機はコルーカッターCH—8一、ジヤックハンマーR39九二、スナップパーL29四〇、ドリフター四、切羽運搬機五乃至一五馬力ホイスト六〇、逆轉エンドレス一〇馬力三、チエーンコンベヤー七等を使用し出炭能率の向上を期せり。

**運搬法** 切羽運搬には電氣原動設備をなし、直接炭車又はチエンコンベヤー、ホイスト等を以て片磐坑道迄搬出し主要片磐の運搬にはエンドレスロープ機を以て捲立迄搬出す、綴竪坑に二二吋三〇〇馬力、東斜坑に一六吋二二〇馬力の各蒸氣捲揚機あり、同新斜坑には六〇〇馬力、高坂二坑は一五〇馬力、町田新斜坑は一二〇馬力の電氣捲揚機械等を以て各捲立或は竪坑底に集合せる炭車を坑外に搬出し選炭場に送る。

炭車は現在木製〇・六瓲鐵製〇・七瓲を併用せり。

**通氣法**　各坑排氣坑口固定吸出扇風機シロツコ型七萬乃至二〇萬立方尺の扇風機を設備す。

**排水法**　坑內水は電動タービンポンプを用ふ。

各坑々底に近く固定卿筒座を設備し卸方面の排水は中段卿筒座へ或は固定卿筒座を經て坑外に揚水す、又は地表よりロープボーリング孔を以て坑內卿筒座にパイプを挿入し直接揚水をなす、尙防水工事としてはダム密閉或はセメント注入法等を施行す。

各坑の排水量合せて每分約一、〇〇〇立方尺に及び卿筒は綴坑に一二〇立方尺—三〇〇立方尺(一四〇—四〇〇馬力)一二臺、住吉坑に一〇〇乃至二〇〇立方尺(四〇〇—一、一〇〇馬力)一〇臺、町田坑に一〇〇立方尺、二〇〇馬力三臺、綴新斜坑に二〇〇立方尺(七五〇馬力)五臺を備ふ。

**選炭法**　各坑の選炭にはマーカス式、ジンマー式、スクリーン或はローラースクリン等に依りて篩分けピツキングコンベヤーを通じ、更に粉炭には各坑合せてジツカー式八臺及共益社三臺セミバームス式二基の水洗裝置を完備す。

綴坑選炭機はローラースクリーン二、バウムジツガー三五瓲二、再選機ジツガー二五瓲一、ジンマースクリーン二、小野式ジツガー一臺あり。

精品は二吋半以上は塊炭二吋半以下一吋半迄は中塊、一吋半以下二分の一吋迄は小塊、以下粉炭な



り。

**照明**　坑內照明は電燈に依る、尙從業員はGS型帽上燈を主とす。

**鑛夫數**　男四、二八三　女四八二　計四、七六五　坑內三、二三九　坑外一、五二六

**附帶事業**　自家用電力供給の爲め平町に常時一萬七千キロワツトの火力發電所を自營す。外に六、〇〇〇キロ發電機一臺据付中

電力は各坑に送電し排水通氣を始めとし鑛業用各種動力並に點燈に使用す。各坑には別に坑外原動機運轉の爲め蒸氣汽罐を設備す。

綴製作所　タービン卿筒捲揚機等事業用諸機械の製作修理の爲め綴停車場に近く綴製作所あり。

## 一四、入山炭鑛

| | |
|---|---|
| 鑛業權者 | 入山採炭株式會社 |
| 位置 | 福島縣石城郡湯本町 |
| 鑛區面積 | 採掘鑛區　五、四九八、九八五坪 |
| 鑛產額 | 昭和八年　三八一、六九五瓲 |
| | 昭和九年　四五四、九一九瓲 |

**地理**　入山炭礦鑛區に接し湯本綴雨驛あり、湯本驛は上野驛を去る二〇三粁、湯本町は人口一萬三千餘、古き溫泉地として世に知らる、東北に平町あり、人口三萬餘、石城郡の中心市場にして鑛業用品は同町より供給を受くるもの多し。東方一里にして小名濱あり、著名の漁港にして現在築港中の商港完成の曉は附近の交通に一大進展を期待せらる。

**地質及炭層**　地質は第三紀新鮮期にして砂岩、頁岩、蠻岩の互層より成る、露頭は三函山に露はれ東に向つて平均十度内外に傾斜せり、炭層は六層あるも主要層は上層本層及下層とす、上層は厚さ四尺内外本層は八尺五寸、殆ど夾雜物なく、下層は厚さ五尺内外なり。

**炭質及用途**　低度瀝青炭にして多少の硫化鐵及石灰石を伴ふも、火焰長く粘膠質皆無なるを以て汽罐燃料及各種工業用に適し、常磐炭中の優良品なり。

其分析表次の如し

| 種別 | 水分 | 揮發分 | 固定炭素 | 灰分 | 硫黄分 | 發熱量 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 五・六八% | 四八・三三% | 四五・五九% | 七・四〇% | 二・五〇 | 七、〇〇六（カロリー） |

現在稼行中の主要なる坑名

| 坑名 | 捲揚機 馬力 | 延長 米 | 傾斜 度 | 日産 噸 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 川平三坑 | 一六吋蒸氣捲 | 八〇〇 | 二〇 | 一〇〇 | 二臺 |
| 五坑 | 二二〇 | 六〇〇 | 二五 | 一、二〇〇 | 一臺（內二臺運轉す） |
| 六坑 | — | 六〇〇 | 一三 | 五四〇 | |
| 四坑斜坑 | 二二〇 | 五五〇 | 計 | 一、八四〇 | |

**採炭法**　第四坑は上層及本層を採掘し第五坑及第六坑は專ら本層を採炭す、採炭方式は殘柱法と長壁法とを併用し前進又は後退による、拂面の長さは二七米乃至一〇〇米として拂跡の大部分及主要坑道兩側等は手詰にて充塡す、石炭の採掘及之が運搬は概ね機械化せらる。

坑道掘進又は採炭には空氣壓縮機に五〇馬力未滿のもの五、一〇〇乃至三〇〇馬力三、採炭機にコールカツターサリバンCLE—2二、バイエンカツター一、ホルマンハンマードリル七〇、インガーソルランドR—39五、コールピツクフロツトマンCA—7二〇臺あり。

**運搬法**　各切羽にて採掘したる石炭は從來の手押による所あるも運搬機として小型捲揚機一〇馬力チエーンコンベヤー二、一〇馬力シエーカーコンベヤー二、を用ゆ。

石炭は〇・七噸炭車に積み込み捲立口に出し五坑は各部坑內斜坑の二二〇馬力電氣捲揚機により主要坑道に捲揚げ五〇馬力エンドレスにより斜坑下に集め十六吋蒸氣捲及二二〇馬力電氣捲機、四坑は

二二〇馬力にて坑外に搬出し選炭場に送る。

**通氣法**　主要坑たる第五、第六坑は高さ九〇〇尺の排氣竪坑々口に能力二五萬立方尺のシロツコ式扇風機を設置し、第四坑はバツフアロー式及シロツコ式二臺を併用す。

**排水法**　排水は總て電動タービンポンプを用ひ坑内各方面の湧水を各中間ポンプ座を經て總て坪下ポンプ座に集中せしめ一二吋鐵管を以て坑外に排出す、水量は各坑合せて毎分約六五〇立方尺、使用ポンプは大多數ヅルチヱール式にして一〇〇立方尺四〇〇馬力一四臺、一〇〇立方尺二二〇馬力三〇臺を備ふ。

出水に對してはボーリング、炭柱壁、ダム密閉等の方法を施行す。

**選炭法**　總て電力を用ひ塊炭中より硬炭の選捨のみ手選による。

五坑選炭機の篩分設備にヂンマースクリーン一、ピツキングバンド二、シエーキングスクリーン一、水洗機には細粉用ジツガー能力三〇瓲二、中小塊粉炭用ジツガー一四〇瓲四臺あり。

精品は三吋以上特塊、三—一・七吋特中塊、一・七—一吋洗中塊、一吋以下粉炭、洗小塊½吋以上、細粉½吋以下にして選炭機の能力は一日一、五〇〇瓲なり。

**照明**　坑内照明は電燈に依る、尚携帯電燈及ボンネツト型ウルフ安全燈を使用す。

**鑛夫數**　男二、二〇三、女一七八、計二、三八一、坑内　一、七六二、坑外　六一九



**附帶事業**　電力は日立及東部電力の兩社より供給を受けて各坑に送電す、坑所には別に坑外原動機運轉の爲め蒸氣汽罐を設備す。

事業用機械器具の製作修理の爲め、木工場、鍛冶工場、鑄物工場、電機修繕場、製材工場等を設け操業に必要なる一切の設備をなす、外に最近煉炭工場を新設せり。

（終り）

# 附　積込設備

## 一、若松港積込設備

若松港は年額一、二〇〇萬瓲を呑吐する帝國第一の積出港にして筑豐炭田の門戸たり、坑所との距離は一五粁乃至五六粁に過ぎず、何れも鐵道に依る販路は阪神、瀨戸內海、伊勢灣、京濱、山陰、北陸方面に及び尙臺灣、朝鮮、上海、香港、南洋諸島に達せり、其輸送は汽船四割、帆船六割を以てす。

積込設備は若松側は帆船積、戶畑側は汽船直積を主とし、一部は艀取の上汽船に沖積をなす。積込機械設備の概要左の如し。

| 個所名 | 名稱 | 基數 | 荷役能力 一基一時間 | 摘要 | 經營者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 戶畑驛構內(牧山) | ブラウンホイスト | 三 | 四五〇(瓲) | 汽船積 | 鐵道省 |
| 〃 | 〃 | 一 | 三〇〇 | 帆船積 | 〃 |
| (新川) | 貝島炭積機 | 一 | — | 帆、汽船用 | 貝島商事株式會社專用 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | ベルトコンベヤー | — | 二八〇 | 〃 | |
| | レクレミングクレーン | — | 一八〇 | 〃 | |
| （新川） | 三菱炭積機 | 一 | — | 〃 | 三菱鑛業株式會社專用 |
| | ベルトコンベヤー | — | 二八〇 | 〃 | |
| | レクレミングクレーン | — | 一八〇 | 〃 | |
| 若松驛構内 | ホイスト | 一 | 一八〇 | 帆船積込專用 | 鐵道省 |
| 〃 | クレーン | 一 | 一八〇 | 〃 | 〃 |
| 〃 | トランスポーター | 一 | — | 〃 | 常揚能力五瓲 |
| 〃 | 漏斗棧橋延長二、二三六呎 | — | — | 帆船積込專用 | 〃 一日能力一八、〇〇〇瓲 |
| 〃藤ノ木貯炭場 | 炭積機 | 二 | 三〇〇 | 〃 | |
| | | — | 〇二五〇 | | 〇貯炭能力 |
| | ウインチ捲 | — | — | | 一日一組 五〇〇瓲 一人當 二五瓲 |
| | 擔込 | — | — | | 一日一組 二〇〇瓲 一人當 一〇瓲 |
| | 燃料手揚積込 | — | — | | 一日一組四、〇〇〇瓲 一時間平均 二〇〇瓲 |
| | ウインチ捲鐵材積込 | — | — | | 一日一基 二五〇瓲 一人當 一六瓲 |



貯炭場は若松側一二萬坪、戸畑側二萬坪、貯炭可能量八〇萬瓲、若松側船積高架棧橋は貯炭陸揚に兼用し大炭積機二基を新設し、亦戸畑側新川貯炭場にありても貯炭用高架棧橋及炭積機二基の設備あり。

## 若松港石炭集散調 自昭和六年至〃十年

| 區別／年次 | 着炭 陸運 | 着炭 水運 内國移入 | 着炭 水運 外國輸入 | 着炭 水運 計 | 着炭 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 六 | 八、二〇五、五七九瓲 | 三三一、八七四瓲 | 一七八、二〇九瓲 | 五一〇、〇八三瓲 | 八、七一五、六八二瓲 |
| 七 | 八、九八五、八二九 | 二九九、四〇四 | 二四八、三一一 | 五四七、七一五 | 九、五三三、五四四 |
| 八 | 一〇、六六七、七三四 | 四二四、一〇三 | 三九九、三三一 | 八二三、四三四 | 一一、四九一、一六八 |
| 九 | 一一、七六三、〇四七 | 五五二、九二四 | 五〇二、二五〇 | 一、〇五五、一七四 | 一二、八一八、二二一 |
| 一〇 | 一二、五〇二、三五四 | 五八五、二七〇 | 五一六、〇〇〇 | 一、一〇一、二七〇 | 一三、六〇三、六二四 |

| 區別／年次 | 積出炭 内國送 門司 | 積出炭 内國送 其他各地 | 積出炭 外國送 | 積出炭 焚料 内國船 | 積出炭 焚料 外國船 | 積出炭 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 六 | 五六三、九一九瓲 | 五、四八七、三四〇瓲 | 一〇九、五四四瓲 | 三三七、五七三瓲 | 三八〇瓲 | 六、四九八、七五六瓲 |
| 七 | 五五一、九三四 | 五、九一五、九五八 | 一九四、六六二 | 四二九、三〇四 | 五、一八八 | 七、〇九七、〇四六 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 八 | 六一六、五八八 | 七、二〇四、一八一 | 一八六、九〇一 | 三八六、九九三 | 八、七七七 | 八、四〇三、四四〇 |
| 九 | 六〇九、六八六 | 七、七九九、〇二四 | 一六二、四九一 | 四一二、七七五 | 二六、四六〇 | 九、〇一〇、四三六 |
| 一〇 | 六六七、七四〇 | 八、〇八八、三四六 | 一三五、九四九 | 四四四、六二三 | 五九、一七六 | 九、三九五、八三四 |

## 炭積機別荷卸數量

自昭和十年一月
至〃十二月

| 區別 月次 | 牧山炭積機 汽船積 | 牧山炭積機 帆船積 | 新川炭積機 汽船積 | 新川炭積機 帆船積 | 藤ノ木棧橋 帆船 漏斗積 | 藤ノ木棧橋 帆船 炭積機積 | 新線炭積機 帆船 ホイスト積 | 新線炭積機 帆船 クレイン積 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一月 | 二一六、七一三瓲 | 二、一〇九瓲 | 五三、一〇〇瓲 | 一六、八九五瓲 | 二七三、九〇六瓲 | —瓲 | 一〇一、五八九瓲 | 八一、六三六瓲 | 七四五、九四六瓲 |
| 二月 | 二三〇、〇四八 | 八四二 | 四九、八五七 | 一八、四五三 | 二六八、八七八 | — | 九〇、五八二 | 八二、九〇〇 | 七四一、五六〇 |
| 三月 | 二六三、九七四 | 一、七〇二 | 四一、二七三 | 一五、五一九 | 三一九、九〇〇 | — | 一〇九、二六〇 | 八五、八〇〇 | 八三七、四二八 |
| 四月 | 二三〇、七八四 | 三四二 | 三三、二四五 | 三三、六八五 | 三〇四、四二三 | — | 一〇三、二五八 | 八四、六八八 | 七六八、四二五 |
| 五月 | 二四六、六四七 | 二〇五 | 四〇、八五二 | 二七、四四六 | 三四八、四六八 | — | 六四、一五三 | 九五、六八九 | 八二三、四六〇 |
| 六月 | 二一一、〇七二 | 六、〇二五 | 三六、〇三九 | 二四、一〇四 | 四四四、八四四 | — | — | 三二、八九五 | 七五四、九七九 |
| 七月 | 一七四、〇五一 | 一、九七八 | 三六、〇九二 | 二六、四七〇 | 四六〇、五六一 | — | — | — | 六九九、一五三 |
| 八月 | 一八三、一三九 | 三、二九六 | 二九、〇一八 | 二四、九〇二 | 四二三、三五〇 | 六、一五二 | — | — | 六六八、八五七 |
| 九月 | 二〇七、〇三三 | 一、一七一 | 三一、五七九 | 三三、五五七 | 四三四、三六八 | 一三、四九二 | — | — | 七一〇、一九九 |
| 十月 | 二五六、四九二 | 一、九四八 | 三八、〇六九 | 二七、〇七七 | 四九五、三六五 | 一八、六七八 | — | — | 八三七、六二九 |
| 十一月 | 二三四、九一四 | 一五五 | 二七、四九一 | 二四、六二三 | 五三五、三三九 | 九、二九八 | — | — | 八二一、八一九 |
| 十二月 | 二五五、二三四 | 三、四四七 | 四七、六二六 | 二三、三四三 | 五一四、五一九 | 一〇、三九一 | — | — | 八五四、五六〇 |
| 累計 | 二、七〇〇、一〇〇 | 二三、二三〇 | 四六四、二四一 | 二七四、〇七三 | 四、八〇七、九二一 | 五八、〇一一 | 四六七、八四〇 | 四六三、六八〇 | 九、二五九、〇一四 |

備考 一、新線炭積機は五月廿日より漸次廢止となる。
二、藤ノ木炭積機は八月十一日より正式運轉を開始す。

## 二、室蘭港積込設備

### （イ） 室蘭港鐵道積込設備

ローダー（船積設備）

主なる設備と作業順序

一〇本の盈車線に貨車積せられたる石炭は（最高收容能力三〇瓲車二〇〇臺）一車づゝ勾配を利用しミュール・ピットに入りミュール・ホレージマンにより押上げられカーダンパーにて轉倒ホッパーに移されエプロンフイーダーによりコンベーヤーに供給更にローダー卽ち積込機により船艙に船積せらるるものにしてカーダンパーより押出されたる空車はキックバックにより空車線に入る。

ミュール・ピットよりローダー迄各二基なり。

積込能力一基毎時六〇〇瓲、最高八〇〇瓲
繋船能力 D/W 八、〇〇〇噸級船同時に二隻
トランスポーター（積卸設備）
マントロリー式　二基
ロープトロリー式　一基
主なる設備　ブリッヂ、捲揚機、グラブバケット（五瓲）
作業　繰替、艀積、貨車積
能力　各基共繰替毎時三〇〇瓲
艀積
貨車積　毎時　一五〇瓲

### （ロ）室蘭港私設積込設備

北海道炭礦汽船株式會社の設置せる積込機にして設備の概要と積込順序左の如し。
陸上高架棧橋より荷卸せる石炭は移動コンベヤー、フイダー、クレイン（二瓲）及地下コンベヤー等により水平、傾斜並可動コンベヤーを經て船積せらるるものなり。
船積設備　二基
積込能力　毎時一基三〇〇瓲
繋船能力　二基に對し同時に一隻より繋船出來ざるも左記船型のものは積込可能なり。

荷物船 D/W　六、〇〇〇噸級船
焚料船　〃　一〇、〇〇〇噸級船

## 室蘭港石炭集散調

自昭和六年
至昭和十年

| 年別 | 着炭 | 外國輸出 | 内國移送 | 道内移送 | 船舶焚料 | | 地元販賣 | 荷捌計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外船 | 内船 計 | | |
| 六 | 一、八五〇、〇三一 | 八〇、四七一 | 一、五二一、四〇五 | 二、四八〇 | 七、六四六 | 二四五、三〇七 二五三、九五三 | 一八、二四一 | 一、八七五、五五二 |
| 七 | 二、〇〇一、〇三七 | 九一、七六八 | 一、七〇六、〇七二 | 四、二九七 | 一三、一九二 | 一五二、二八六 一六五、四七八 | 一四、四三九 | 一、九八二、一五四 |
| 八 | 二、三四二、四六七 | 一三三、九八二 | 二、二〇七、六七九 | 一〇、六四九 | 四五、一二八 | 一九一、七一九 二三六、八五七 | 一七、九九二 | 二、五九六、一五九 |
| 九 | 二、五八三、二八〇 | 一〇四、〇九〇 | 二、二〇三、二四六 | 一二、七五一 | 五六、一八九 | 二四二、七二六 二九八、九一五 | 一五、一七四 | 二、六三三、一七六 |
| 一〇 | 二、八三四、五七二 | 一一一、七三八 | 二、三〇二、五七一 | 一五、三〇八 | 九三、六四三 | 二六三、七八五 三五七、四二八 | 一六、六一六 | 二、八〇三、六六一 |

## 室蘭港鐵道積込實績調

自昭和十年一月
至〃　十二月

| 月別 | 北炭 | | | 三菱 | | | 住友 | | | 合計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | ローダー | トランスポーダー | 計 | ローダー | トランスポーダー | 計 | ローダー | トランスポーダー | 計 | ローダー | トランスポーダー | 計 |
| 一 | 一〇二、一二九 | — | 一〇二、一二九 | 一六、七六四 | — | 一六、七六四 | 三、四一六 | — | 三、四一六 | 一二三、三〇九 | — | 一二三、三〇九 |
| 二 | 一一〇、八二八 | — | 一一〇、八二八 | 二六、六九四 | — | 二六、六九四 | 二、〇二〇 | — | 二、〇二〇 | 一三九、五四二 | — | 一三九、五四二 |
| 三 | 一三一、四八七 | — | 一三一、四八七 | 三〇、五〇五 | — | 三〇、五〇五 | 二、〇三三 | — | 二、〇三三 | 一六四、〇二五 | — | 一六四、〇二五 |
| 四 | 一一七、九四二 | — | 一一七、九四二 | 二四、二五五 | — | 二四、二五五 | 二、〇一六 | — | 二、〇一六 | 一四四、一二三 | — | 一四四、一二三 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五 | 九二、〇九五 | — | 九二、〇九五 | 二九、一〇七 | 三、九四三 | 三二、〇四九 | 一、〇一六 | 一〇〇 | 一、一一六 | 一三、二二八 | 四、〇四三 | 一三六、二六〇 |
| 六 | 八七、二六七 | — | 八七、二六七 | 二七、六二八 | 二、四六五 | 三〇、〇九二 | 一、〇一六 | — | 一、〇一六 | 一二五、九一一 | 二、四六四 | 一二八、三七五 |
| 七 | 九八、七二八 | — | 九八、七二八 | 三二、〇六二 | 一、二八〇 | 三三、三六二 | 九九〇 | — | 九九〇 | 一三一、八一〇 | 一、二八〇 | 一三三、〇九〇 |
| 八 | 七六、六二〇 | — | 七六、六二〇 | 三二、〇五〇 | 二、八〇六 | 二四、八五六 | — | 一二五 | 一二五 | 九八、六七〇 | 二、九三一 | 一〇一、六〇一 |
| 九 | 一三二、六一六 | — | 一三二、六一六 | 二〇、三二二 | 一、七四五 | 三三、〇五七 | 一、〇二〇 | — | 一、〇二〇 | 一五三、九四八 | 一、七四五 | 一五五、六九三 |
| 一〇 | 一二五、九三六 | — | 一二五、九三六 | 三一、〇三三 | 五、二〇三 | 三六、二三六 | 二、〇一六 | — | 二、〇一六 | 一四八、九八五 | 五、二〇三 | 一五四、一八八 |
| 一一 | 一三五、二〇五 | — | 一三五、二〇五 | 三三、九二三 | 五六〇 | 三三、四八三 | 一、〇一六 | — | 一、〇一六 | 一五九、一四四 | 五六〇 | 一五九、七〇四 |
| 一二 | 一三三、四九九 | — | 一三三、四九九 | 三七、三六一 | 二、三〇六 | 三九、六六七 | 三、〇〇〇 | 二四〇 | 二、二四〇 | 一七二、八六〇 | 二、五四六 | 一七五、四〇六 |
| 合計 | 一、三二四、三六三 | — | 一、三二四、三六三 | 三三〇、七一五 | 二八、九八七 | 三五九、九〇二 | 一八、五五九 | 四六五 | 一九、〇二四 | 一、六七三、六三七 | 二九、四五三 | 一、七〇三、〇八九 |

## 室蘭港私設ローダー積込實績調

自昭和十年一月
至〃十二月

| 月別 | 瓲数 |
|---|---|
| 一 | 六六、四八九 |
| 二 | 六四、〇九〇 |
| 三 | 七五、五三三 |
| 四 | 六六、七四〇 |
| 五 | 五〇、八二五 |
| 六 | 六六、九九八 |
| 七 | 五〇、〇三一 |
| 八 | 六六、三一〇 |
| 九 | 一九、二九二 |
| 一〇 | 八七、七〇二 |
| 一一 | 六八、四四二 |
| 一二 | 九六、四六四 |
| 合計 | 七七八、九一六 |

## 昭和十年地方別重要炭山出炭高（十年一月—十二月）單位千瓲

| 地名 | 坑名 | 出炭高 |
|---|---|---|
| 筑豐 | 大ノ浦 | 一、三五八 |
| | 田川 | 一、二〇六 |
| | △二瀨 | 一、〇一二 |
| | 中鶴 | 六四〇 |
| | 飯塚 | 五三五 |
| | 三井山野 | 六四二 |
| | 豐國 | 四八五 |
| | 綱分 | 四五一 |
| | 鯰田 | 七一一 |
| | 赤池 | 三九二 |
| | 忠隈 | 四三九 |
| | 新入 | 四〇二 |
| | △高松 | 三八一 |
| | 大辻 | 三八四 |
| | 方城 | 四二六 |
| | 上山田 | 三四〇 |
| | 目尾 | 三〇一 |
| | 下山田 | 三二九 |
| 峰地 | | 二七一 |
| 嘉穗 | | 三〇八 |
| 平山 | | 二四六 |
| 大峰 | | 二二一 |
| 吉隈 | | 二二一 |
| 芳雄 | | 一七二 |
| 大峰三坑 | | 一六一 |
| 豆田 | | 一八六 |
| △山田 | | 二一三 |
| △稻築 | | 一八一 |
| △木戸 | | 一六八 |
| △木屋瀨 | | 一三四 |
| △新手 | | 一四〇 |
| △豐州 | | 一一二 |
| △岩崎 | | 九二 |
| △築紫 | | 一八八 |
| △漆生 | | 一〇五 |
| △梅ノ木 | | 一二三 |
| △深阪 | | 一〇四 |
| △宮尾 | | 七六 |
| △大成 | | 七七 |
| △高尾 | | 一〇九 |
| △相田 | | 七四 |
| △上山 | | 五二 |
| △海老津 | | 六三 |
| △池田 | | 五六 |
| △綠 | | 六八 |
| △木城 | | 八五 |
| △猪ノ鼻 | | 一〇九 |
| △玄王 | | 三〇 |
| △糸飛 | | 八二 |
| 合計 | | 一四、六六一 |
| 糟屋 | | |
| △海軍新原 | | 五一六 |
| 早良 | | 三二三 |
| 高田 | | 二五五 |
| △昭和 | | 二一一 |
| 龜山 | | 一七四 |
| △第二大谷 | | 一六一 |

| | |
|---|---|
| 糟屋 | 一三六 |
| △長禮 | 一〇二 |
| 合計 | 一、八七八 |
| 三池三池 | 二、四七七 |
| 長崎戸町 | 九五三 |
| 佐賀高島 | 四八五 |
| 杵島 | 六一二 |
| △鹿町 | 二二七 |
| 松浦 | 一五七 |
| △池野 | 二一八 |
| 住友大瀬 | 一二三 |
| △神田 | 一二四 |
| 芳野浦 | 一三六 |
| 岩屋 | 一二六 |
| △新中里 | 八八 |
| △矢岳 | 七四 |
| 新屋敷 | 六九 |
| 合計 | 五、八六九 |
| 夕張 | 一、二四二 |
| 三菱美唄 | 九四四 |
| 三井砂川 | 八六〇 |
| 大夕張新坑 | 五〇八 |
| 空知 | 四六四 |
| 幌内 | 四一九 |
| 三井美唄 | 三二五 |
| 茂尻 | 二三七 |
| 眞谷地 | 二七〇 |
| 新夕張 | 二三九 |
| 奔別 | 二三八 |
| 雄別 | 二四九 |
| 彌生 | 二一八 |
| 上歌志内 | 一八一 |
| 幾春別 | 一二一 |
| △茅沼 | 一二六 |
| 歌志内 | 一三一 |
| 新歌志内 | 一三四 |
| 万字美流渡 | 一〇〇 |
| 雨龍 | 九九 |
| 登川 | 九三 |
| 昭和 | 一一七 |
| 尺別 | 六八 |
| △新幌内 | 一五九 |
| 唐松 | 五六 |
| 春採 | 二六二 |
| 別保 | 九四 |
| 合計 | 七、九五四 |
| 常磐内郷 | 七九八 |
| 入山 | 四八三 |
| 好間 | 二六五 |
| △隅田川 | 一三三 |
| △小田第二 | 一二五 |
| 勿來 | 九四 |
| 大日本高萩 | 一一九 |
| 中郷 | 四四 |
| 重内 | 六九 |
| 福島 | 三九 |
| 小野田 | 五三 |
| 合計 | 二、二二二 |
| 宇部沖ノ山 | 一、一五五 |
| 東見初 | 六八七 |
| 新沖ノ山 | 二二六 |
| 西沖ノ山 | 一七 |
| 其他 | |
| △山陽大嶺 | 一八九 |
| 合計 | 二、〇八五 |
| △印非加盟炭鑛 | |
| 總計 | 三四、八五八 |

683
238

11.3.28

昭和十一年三月二十五日印刷
昭和十一年三月三十日發行　（非賣品）

發行所　東京市麹町區丸ノ内一ノ二
日本工業倶樂部内
石炭鑛業聯合會

編輯兼發行者　埼玉縣浦和市岸區岸町二五五五
奥中孝三

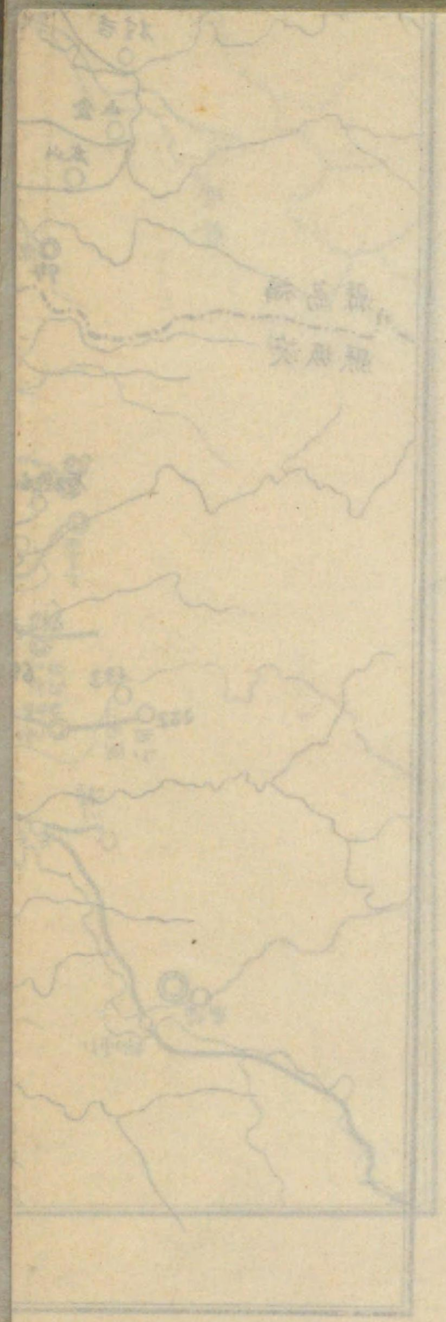
印刷者　東京市神田區美土代町一六
島連太郎

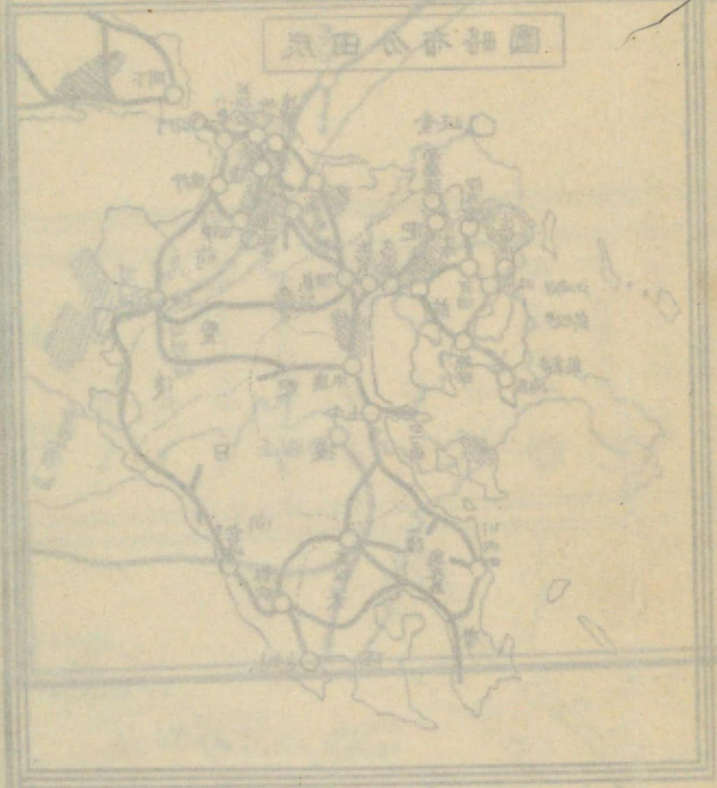
印刷所　東京市神田區美土代町一六
三秀舍

# 折り込み部分

# 未撮影

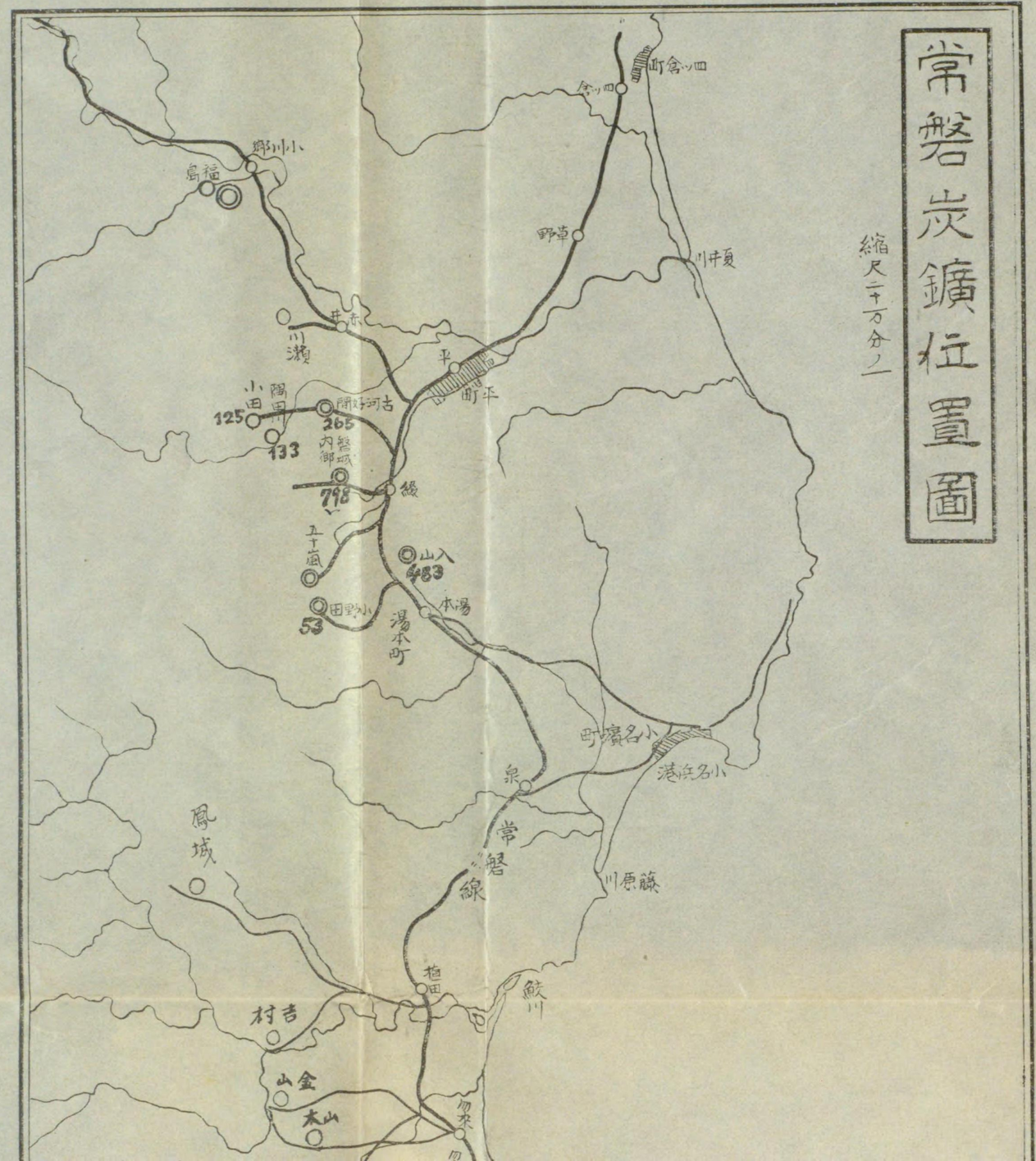
683
238

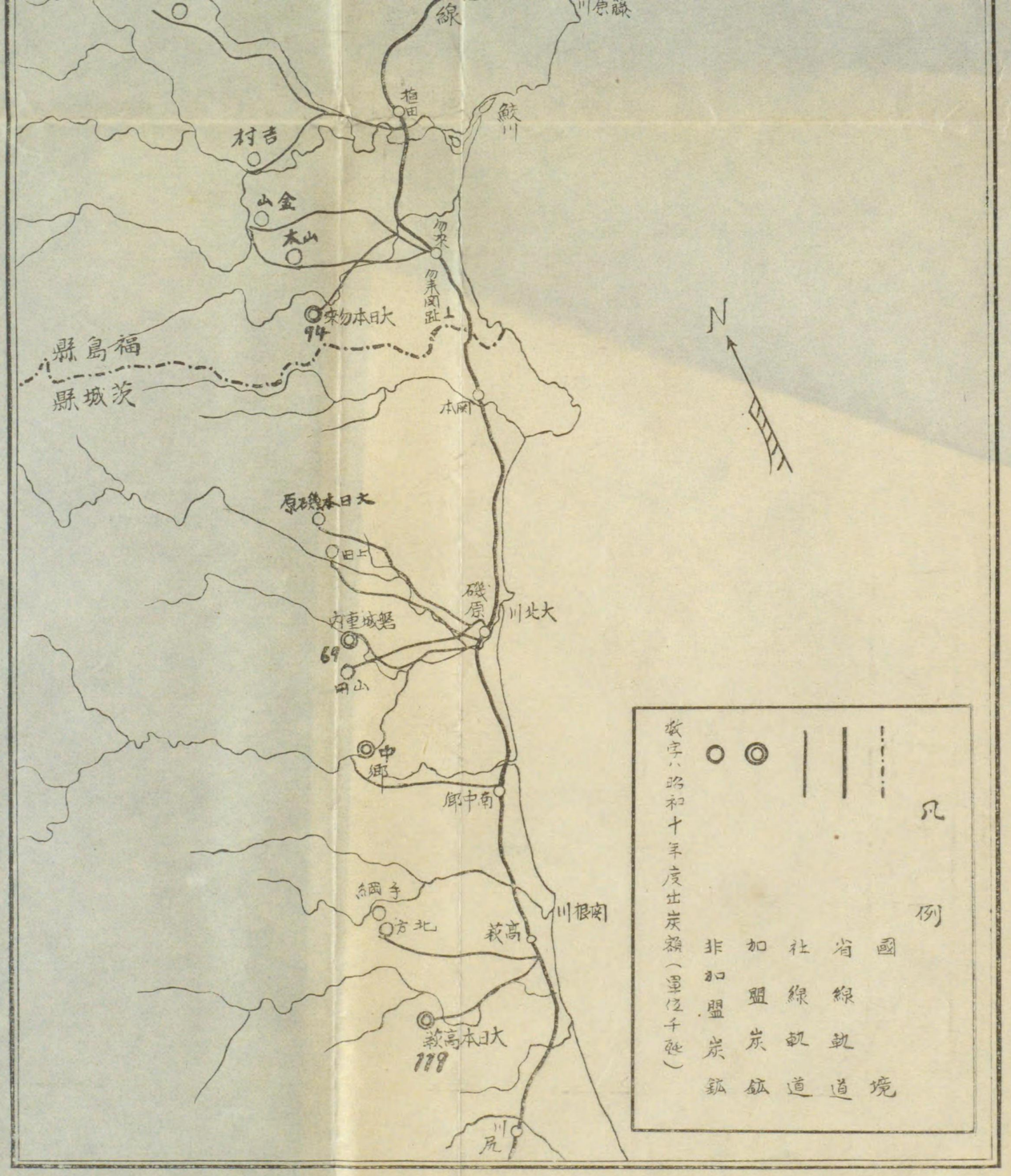




# 常磐炭鑛位置圖

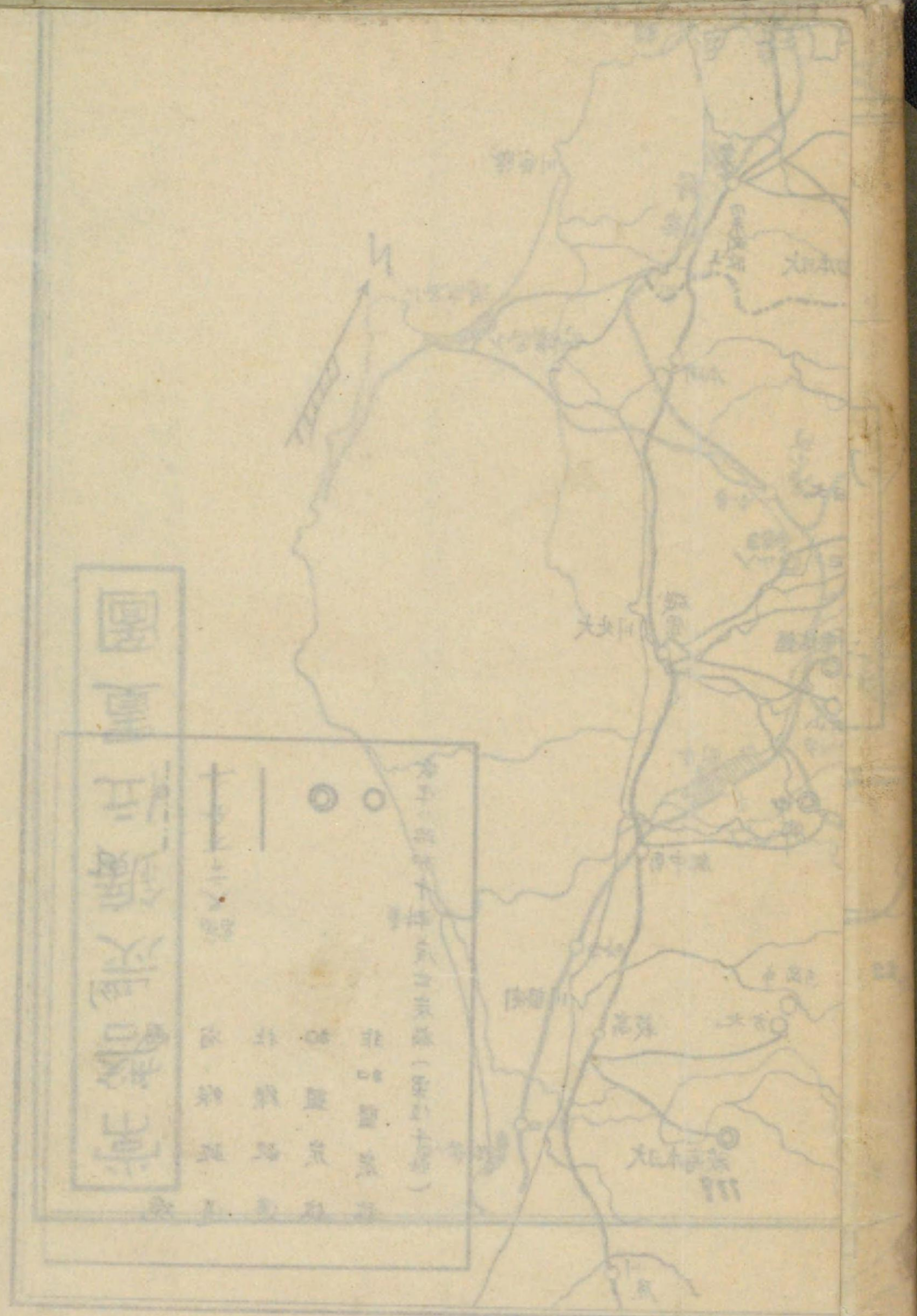
縮尺二十万分ノ一





線
吉村
金山
山本
大日本勿來
94
福島縣
茨城縣
本岡
大日本磯原
磯原
大北川
磐城重内
69
中郷
南中郷
手綱
北方
高萩
大日本高萩
119
川尻
N
凡例
國境
省線軌道
社線軌道
加盟炭鉱
非加盟炭鉱
數字ハ昭和十年度出炭額（單位千瓩）

683
238



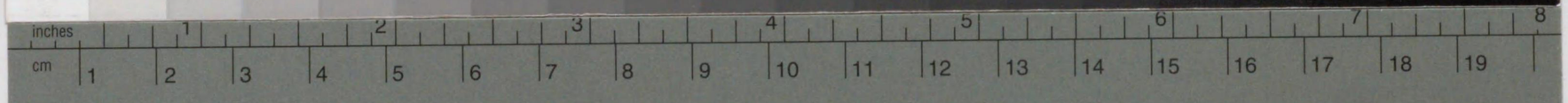
683
238

**Kodak** Gray Scale

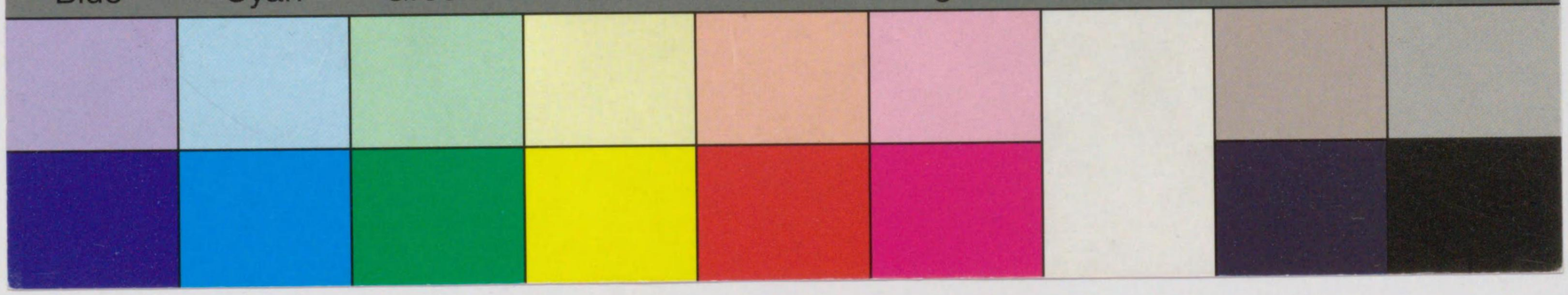
C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19




**Kodak** Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black